科目コード	51181001	単位	2	時間数	30
授業科目名	くらしと法A－法学－	開講学期等	前期	時間割	木3・4
授業科目名英字	Introduction to Law : A				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1・2・3・4年		
内容的に密接に関係する授業科目	日本国憲法 B・C	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
小野寺倫子	教育文化学部	教文3‐328	018-889-2659				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日　11：00～12：00	【場所】	教文3‐328室

授業の目的	授業の到達目標
法学一般に共通する基本的な知識・思考力を身につける。	法学科目を学ぶ際に必要な基礎的・基本的な考え方と知識を身につける

カリキュラム上の位置付け	法律諸科目を学ぶ際の共通の基礎となる科目である。
授業の概要	法学入門のための定評ある教科書の読解を通じて、身近な話題を素材としながら、法学に関する基礎的な知識・思考力を涵養する。
授業の進行予定及び進め方	授業計画 第1回　法学を学ぶにあたって 第2回　法と習俗① 第3回　法と習俗② 第4回　法と道徳① 第5回　法と道徳② 第6回　法と宗教 第7回　法規範の特色 第8回　法源①制定法 第9回　法源②慣習法 第10回　法源③判例法 第11回　法源④条理・学説 第12回　法の適用－紛争解決のメカニズム 第13回　法の解釈①法解釈の意義 第14回　法の解釈②法解釈の方法 第15回　法の解釈③法解釈学の科学性 第16回　定期試験

授業に関連するキーワード			
	法	法学	法規範
	社会規範	法源	法の解釈
	法の適用		

成績評価の方法	100点を満点として、期末試験（80%）の成績と学習への積極性等に基づく平常点（20%）の合計60点以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『法学入門〔第3版〕』	五十嵐清	悠々社	2005
	参考書	『プレップ　法学を学ぶ前に』	道垣内弘人	弘文堂	2010

教科書・参考書等に関する記述欄	あらかじめ教科書を読んでから授業に出席すること。
自由記述欄	受講の際は、六法（小型のものでよい）を必ず持参すること。

科目コード	51182001	単位	2	時間数	30
授業科目名	日本国憲法A	開講学期等	前期	時間割	火3・4
授業科目名英字	The Constitution of Japan A				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	現代社会と法－教養法学－，教養ゼミナールⅡ－人権の現代的諸相－	履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
池村　好道	教育文化・地域科学	教文3-330	2661				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日　18:00～19:00	【場所】	教文３－３３０

授業の目的	授業の到達目標
統治機構を中心とした日本国憲法の基礎的理解	１）憲法上の基本的な諸概念を説明できる。 ２）日本国憲法の基本構造を説明できる。 ３）各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。

カリキュラム上の位置付け	本学の教育目標である「主体性と節度のある社会人となるための充実した教養教育」のための授業科目の一つ。 本授業科目は統治機構に主眼がおかれており，「人権の現代的諸相」の履修と合わせて，憲法の一層の理解が可能となる。
授業の概要	【授業の概要】 憲法の理念と現実という問題を意識しながら，比較憲法的視点を加味して，統治機構を中心に日本国憲法の入門的解説を行う。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1～2回．国民主権と天皇制：天皇の地位，天皇の行為 3～4回．平和主義：９条の解釈 5～6回．国会：両院制，参議院の存在理由など 7～8回．内閣：議院内閣制など 9～10回．裁判所：司法権の観念と帰属など 11回．地方自治：「地方自治の本旨」など 12～14回．基本権：種類，享有主体など 15回．基本権：私人間効力 ・講義のなかで，憲法の条文をはじめ「六法」をしばしば参照する。

授業に関連するキーワード			
	憲法	統治機構	象徴
	戦争の放棄	衆議院の解散	司法権の独立
	外国人の人権		

成績評価の方法	期末試験の結果（80%）及び学習態度（20%）による。総合60%以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しない。プリントを配付する。参考文献は適宜示す。 最も小型のものでよいから，「六法」を用意すること。
自由記述欄	

科目コード	51182002	単位	2	時間数	30
授業科目名	日本国憲法Ｂ	開講学期等	前期	時間割	金3・4
授業科目名英字	Constitutional Law:B				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1・2・3・4年		
内容的に密接に関係する授業科目	くらしと法A・B	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
小野寺倫子	教育文化学部	教文3-328	018-889-2659				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日11：00～12：00	【場所】	教文3－328

授業の目的	授業の到達目標
日本国憲法の基礎的理解	１）憲法上の基本的な諸概念を説明できる。 ２）日本国憲法の基本構造を説明できる。 ３）各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。

カリキュラム上の位置付け	
授業の概要	憲法の理念と現実という問題を意識しながら，日本国憲法の入門的解説を行う。
授業の進行予定及び進め方	授業計画 第1回　憲法の意義及び特質 第2回　国民主権と天皇制 第3回　平和主義 第4回　国会の地位及び構成 第5回　国会及び議院の権能 第6回　内閣の地位、組織及び権限 第7回　司法権の独立、裁判の民主的統制、違憲審査権 第8回　地方自治 第9回　基本権の観念と種類 第10回　基本権の享有主体と私人間効力 第11回　基本権制約の法理 第12回　精神的自由権 第13回　経済的自由権 第14回　社会権、参政権、受益権 第15回　包括的基本権、平等権 第16回　学期末試験

授業に関連するキーワード			
	日本国憲法	国民主権	基本的人権
	平和主義		

成績評価の方法	学期末試験の結果（80%）及び学習態度（20%）による。総合60%以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『憲法入門』	長谷部恭男	羽鳥書店	2010
	参考書	『プレップ　法学を学ぶ前に』	道垣内弘人	弘文堂	2010

教科書・参考書等に関する記述欄	参考文献は適宜示す。　最も小型のものでよいから，「六法」を用意すること。
自由記述欄	

科目コード	51182005	単位	2	時間数	30
授業科目名	現代社会と法－教養法学－	開講学期等	前期	時間割	金5・6
授業科目名英字	an intrqduction to modern law				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部1－4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
池村好道	教育文化	教文3－330	889－2661				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜午後６－７時	【場所】	教文3－330

授業の目的	授業の到達目標
現代法及びリーガル・マインドの基礎的理解	・現代法の基底にある法原理を説明できる。 ・基礎的法概念を説明できる。 ・日常の法的事象につき、問題の所在を的確に把握できる。

カリキュラム上の位置付け	法的素養を修得するための授業科目であると同時に、法を専門的に学ぶ上での出発点となる科目でもある。
授業の概要	具体的事例、裁判例を織り交ぜながら、社会規範としての法を見る眼を養ったうえで、現代法を支配している諸原理を明らかにする。
授業の進行予定及び進め方	Ｉ－３回　法と道徳の関係をめぐる諸説の検討 ４－７回　法的制裁 ・刑事上の制裁 ・民事上の制裁 ・行政上の制裁 ８－１０回　法の存在形式 １０－１１回　法の適用 ・裁判過程 ・裁判上の諸原理 １３－１５回　現代法の諸原理 ・法治主義 ・過失責任主義とその修正 ・講義のなかで、しばしば「六法」を参照する。

授業に関連するキーワード			
	刑罰	損害賠償	強制執行
	正義	法的安定性	立証責任
	法律による行政の原理		

成績評価の方法	期末試験の結果(80%)及び学習態度(20%)による。総合60%以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しない。参考文献は適宜示す。最も小型のものでよいから、事前に「六法」を用意しておくこと。
自由記述欄	

科目コード	51202001	単位	2	時間数	30
授業科目名	現代社会と経済ＩA－経済学入門	開講学期等	前期	時間割	木3･4
授業科目名英字	Modern World and Economy IA:Introduction to Economics				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部1～4年生		
内容的に密接に関係する授業科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、経済学概論、日本経済論	履修する際に前提とする授業科目	なし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
荒井壮一	地域社会講座	3-326	2657				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜5・6	【場所】	

授業の目的	授業の到達目標
日々のニュース・新聞記事等で見られるように、現代社会が直面する経済問題は多種多様である。経済学の知見を学ぶことを通して、そうした問題を自らの頭で考えていくための土台を築くことが、本講義の目的である。	・近代経済学的なものの見方を理解し、説明できる。 ・日本経済の歩みの中で、金融システムに生じた変化について列挙できる。 ・現代社会における様々な経済問題を考えるための視点を身につける。

カリキュラム上の位置付け	
授業の概要	主に扱う話題は、代表的な近代経済学の概要と、特に金融システムの変化に焦点を当てた日本経済の歩みである。こうした学問的な背景および歴史的な背景を踏まえた上で、現代社会における主要な経済問題について解説を行う。
授業の進行予定及び進め方	第1回　イントロダクション 第2回　経済学とは何か？（１）：アメリカ自動車産業と経済学 第3回　経済学とは何か？（２）：資本主義・社会主義と経済学 第4回　経済学とは何か？（３）：ケインジアンと新古典派 第5回　日本経済史と金融システム（１） 第6回　日本経済史と金融システム（２） 第7回　日本経済史と金融システム（３） 第8回　日本経済史と金融システム（４） 第9回　日本経済史と金融システム（５） 第10回　現代経済の焦点（１）：市場型間接金融システムと金融政策 第11回　現代経済の焦点（２）：経済のグローバル化と産業構造の変化 第12回　現代経済の焦点（３）：構造的失業と雇用 第13回　現代経済の焦点（４）：金融危機の国際連動性 第14回　現代経済の焦点（５）：中国経済とシャドウバンキング 第15回　まとめ 期末試験
授業に関連するキーワード	
成績評価の方法	講義中に行う小テスト40%、期末試験60%で評価する。総合60点以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	テキストは特に指定しない。適時レジュメを配布する。
自由記述欄	

科目コード	51202003	単位	2	時間数	30
授業科目名	現代社会と経済Ⅱ－証券ビジネス論－	開講学期等	前期	時間割	水7・8
授業科目名英字	Modern World and Economy II:Global Securities Business & Financial Planning				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
教育推進主管	教育推進総合センター	学生支援棟１階事務室内	018-889-3193				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	質問や意見はメールで受け付けま	【場所】	

授業の目的	授業の到達目標
戦後の日本を支えた仕組みが変わりいわば自己責任の時代がやってきたといえる。変化するということは悪いことばかりではない。自己責任の時代は知識を知っているかいないかで結果が大きく変わりうる。今後日本人として考えておくべき問題と社会や経済の変化について学び、金融・保険・不動産等についてや企業を起こすときに、知っておくべきことを学ぶ。 講義は現役の証券マンが担当する。実際のビジネスシーンや就職の面接では企業ではどんなことを考えているかや、その時々のタイムリーな話題についても解説する。	就職までに身につけておいたほうが良いことや有能な社会人となるために必要なことを理解する。 経済と金融についての知識、人生設計とライフプランニングの知識を身につける。 債券、株式、投資信託について学び、年金の制度や確定拠出年金の基礎知識を学ぶ。

カリキュラム上の位置付け	大学生活を有意義に過ごすには、大学卒業後おきることをあらかじめ理解し予想し準備しておくことも重要だと思います。今の日本がおかれている状況を理解し、自己責任の時代を生きていくために必要な知識を身につけてほしいと思います。
授業の概要	【授業の概要】 授業は講義形式を中心に進めます。毎回疑問点や感想を提出してもらい、それをもとに前回の復習からスタートします。海外の状況やその時々の政治経済のトピックス的な話題にも触れる予定です。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 ①4月9日（水）　「ガイダンス」　【講師】　野村證券（株）　秋田支店　法人課　課長代理　三垣 祐也 ②4月16日（水）　「経済情報の捉え方」　【講師】　野村證券（株）　秋田支店　法人課　課長代理　三垣 祐也 ③4月23日（水）　「金融資本市場の役割とその変化」【講師】　野村證券（株）　秋田支店　支店長　朝日奈 大輔 ④4月30日（水）　「債券市場の役割と投資の考え方Ⅰ」【講師】　野村證券（株）　ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ部　ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　中尾 浩一 ⑤5月7日（水）　「債券市場の役割と投資の考え方Ⅱ」【講師】　野村證券（株）　ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ部　ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　中尾 浩一 ⑥5月14日（水）　「株式市場の役割と投資の考え方Ⅰ」【講師】　野村證券（株）　秋田支店　ﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙ・ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ課　藤田 剛 ⑦5月21日（水）　「株式市場の役割と投資の考え方Ⅱ」【講師】　野村證券（株）　秋田支店　ﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙ・ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ課　町田 亮平 ⑧5月28日（水）　「投資信託の役割とその仕組み」【講師】　野村證券（株）　秋田支店　ﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙ・ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ課　木村 汐里 ⑨6月4日（水）　「外国為替相場とその変動要因について」　【講師】　野村證券（株）　金融公共公益法人部　課長代理　藤原 誠一 ⑩6月11日（水）　「証券投資のリスク・リターン」【講師】　野村證券（株）　投資情報部　ｼﾆｱﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙﾌﾟﾗﾝﾅｰ　阿部 利孝 ⑪6月18日（水）　「ポートフォリオ・マネジメント」【講師】　野村證券（株）　投資情報部　ｼﾆｱﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙﾌﾟﾗﾝﾅｰ　阿部 利孝 ⑫6月25日（水）　「日本の株式市場史」【講師】　野村證券（株）　秋田支店　法人課　課長代理　三垣 祐也 ⑬7月2日（水）　「グローバル化する世界と資本市場の果たす役割」【講師】 野村ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ（株） ｺｰﾎﾟﾚｰﾄ・ｼﾃｨｽﾞﾝｼｯﾌﾟ推進室　SCO　池上 浩一 ⑭7月9日（水）　「資本市場における投資家心理」【講師】　野村證券（株）　秋田支店　支店長　朝日奈 大輔 ⑮7月16日（水）　「ライフプランニングとNISA」【講師】　野村證券（株）　投資情報部　ｼﾆｱﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙﾌﾟﾗﾝﾅｰ　阿部 利孝 ⑯7月23日（水）　試　　験

授業に関連するキーワード			
	ライフプランニング	ファイナンシャルプランニング	リスクとリターン
	確定拠出年金	自己責任社会	グローバル化

成績評価の方法	定期試験（70%）出席状況（30%）を中心に総合的に評価して60点以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51192001	単位	2	時間数	
授業科目名	現代社会と政治A	開講学期等	前期	時間割	金3・4
授業科目名英字	Modern Society and Politics A				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
中澤　俊輔	教育文化学部	教育文化学部3号館327	018-889-2658				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜11～12時	【場所】	教育文化学部3号館327

授業の目的	授業の到達目標
政治学の基礎を学びながら現代政治に対する理解を深める。	政治学の基礎を習得する。 現代社会における政治的な事象を論理的に考察する力を養う。 現代の日本政治を歴史的な過程を踏まえて理解する。

カリキュラム上の位置付け	政治学の基本的な考え方を学んでいただきます。
授業の概要	【授業の概要】 前半は現代の政治を構成する概念と制度について説明します。第1～8回 後半は現代に至る日本政治と国際政治の歩みについて説明します。第9～15回
授業の進行予定及び進め方	【授業の進行予定及び進め方】 第1回　オリエンテーション 第2回　デモクラシー 第3回　リーダーシップ 第4回　選挙 第5回　議会 第6回　政党 第7回　官僚 第8回　メディアと世論 第9回　日本政治　①戦後政治の起源 第10回　日本政治　②55年体制（上） 第11回　日本政治　③55年体制（下） 第12回　日本政治　④政治改革 第13回　日本政治　⑤民主党政権 第14回　国際政治　①国際秩序 第15回　国際政治　②グローバル化 期末試験

授業に関連するキーワード			
	デモクラシー	リーダーシップ	選挙
	議会	政党	官僚
	メディア	日本政治	国際政治

成績評価の方法	期末試験（70%）、レポート（30%）

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参	『政治学』	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会	2012

教科書・参考書等に関する記述欄	授業は毎回配布するレジュメに沿って行います。上記以外の参考文献はそのつど紹介します。
自由記述欄	

科目コード	51202004	単位	2	時間数	30
授業科目名	マクロ経済学入門	開講学期等	前期	時間割	木3・4
授業科目名英字	Introductory Macroeconomics				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部1～4年生		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
髙樋さち子	教育文化学部	4-411	2764				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日　９・10時限	【場所】	研究室

授業の目的	授業の到達目標
近年、世界経済はあらゆる面で変化し、相互依存関係がさらに複雑になってきた。 従来の経済学では説明できない新しい経済現象が出現しつつある。 マクロ経済学では集計化された経済活動を分析の対象としているため，経済主体とその目的は比較的，単純化されている。 授業の進行に従いマクロ経済学の基礎的理論の理解を目的とする。	今日の日本経済・世界経済が直面する諸問題を理解し、基礎知識の習得ができるようになる。 また、最近の国際経済における問題提起をしながら広範囲な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け	
授業の概要	日本経済も過去数十年間で大きく変化し、例えば経済成長の結果国際経済に占める位置は上昇し諸外国との関係は考えられほど複雑化している。 マクロ経済学の基礎部分を利用して問題解決の糸口とする。
授業の進行予定及び進め方	第１回　ガイダンス・評価についての説明 講義の進め方について ミクロ経済学とマクロ経済学の違い 第２－４回　マクロ経済活動の測定 ①失業 ②インフレーション ③成長 ④労働市場・生産物市場・資本市場 第５－７回　貨幣理論とマクロ経済 ①貨幣と銀行 ②貨幣理論と金融政策 第８-10回　公共部門 ①公共財 ②政府と再配分 ③政府と市場の失敗 第11-13回　経済体制 第14-15回　経済発展 最終試験についての説明

授業に関連するキーワード			
	近代経済学	マクロ経済学	失業
	インフレーション	公共政策	財政政策
	経済の再配分	市場の失敗	

成績評価の方法	レポート(20%) 試験(80%)

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	講義中に随時紹介する
自由記述欄	

科目コード	51192003	単位	2	時間数	30
授業科目名	日本と諸外国の政治Ⅰ－現代日本政治－	開講学期等	前期	時間割	火5・6
授業科目名英字	Modern Japanese Politics				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部1～4年生		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
中村裕	国際資源学部	教育3－332	内線2604				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	月11時～12時	【場所】	教育3－332

授業の目的	授業の到達目標
社会科学の基礎としての現代日本政治の理解	1. 社会科学の1分野としての政治学の基礎の習得。 2. マスメディア等の議論に対する自分なりの観点の整理。 3. 新聞，雑誌，学術書等にッ積極的に触れる態度の育成。

カリキュラム上の位置付け	
授業の概要	現代日本政治の実態に触れつつ，その歴史的背景，理論的意味を検討する。
授業の進行予定及び進め方	1回目　日本国憲法に規定された統治機構：議院内閣制。 2回目～3回目　現在の日本の議会政党。 4回目　自由民主党の主導体制：政治体制と政党のあり方。 5回目～6回目　自由民主党一党優位体制(1)：高度経済成長時代。 7回目～8回目　自由民主党一党優位体制(2)：新自由主義的改革。 9回目～10回目　自由民主党一党優位体制(3)：政権政党と官僚。 11回目～12回目　政権交代と政界再編。 13回目～14回目　先進国日本の政治争点。 15回目　国際政治のなかでの日本政治。

授業に関連するキーワード			
	自由民主党	民主党	一党優位体制
	政界再編	新自由主義的改革	選挙
	官僚	圧力団体	国際社会

成績評価の方法	基本的に試験。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考書	『自民党』	北岡伸一	中公文庫	2008

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51192005	単位	2	時間数	30
授業科目名	国際政治経済－今世界で起きていること－	開講学期等	前期	時間割	火9・10
授業科目名英字	Global Political Economy －What happen to our world today－				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部1～4年生		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
縄田浩志	国際資源学部資源政策	VIC207	018-889-3256				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜7・8時限	【場所】	研究室

授業の目的	授業の到達目標
そのとき世界でおきていることの中から具体的な事例を選び、そこからの様々な事象のつながりを解説することにより、国際社会のしくみを総合的にとらえる視座を獲得することを目的とする。主に国家を単位とする政治経済の分野はもちろんのこと、地域単位で発生する民族紛争や人権問題、さらには地球規模の広がりを持つ人口・食料、資源・エネルギーや環境問題についての基礎的な知識を学びながら、国家／地域／世界といった各レベルでの実践的な問題解決に向けた素養を身につける。	1）各国・地域の社会事情と政治経済を中心として、国際社会のしくみを総合的に理解できるようになる。 2）民族紛争、人口・食料問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった現代的な課題を把握できるようになる。 3）国家／地域／世界といった各レベルでの実践的な問題解決に向けた素養を身につける。

カリキュラム上の位置付け	教養基礎科目
授業の概要	1回目～3回目では国際政治経済の分析の枠組み、単位、方法を概説する。4回目～10回目では民族問題、宗教問題、資源問題、人口・食料問題、エネルギー問題、南北問題、そして地球環境問題という現代的課題ごとに国際政治経済の具体的な動態を探る。11回目～14回目では、ＮＧＯ／市民社会、国際紛争、開発援助・復興支援、科学技術・知的財産権といった側面から国際政治経済の特徴を浮き彫りにしていく。15回目は国際政治経済から見た未来像を検討する。
授業の進行予定及び進め方	1回目　はじめに：今世界でおきていることを知り、考え、行動する 2回目　国際政治と世界の仕組み：国民国家はどのように成立したのか？ 3回目　国際経済と世界の仕組み：資源をどのように分かち合ってきたのか？ 4回目　民族問題と国際政治経済 5回目　宗教問題と国際政治経済 6回目　資源問題と国際政治経済 7回目　人口・食料問題と国際政治経済 8回目　エネルギー問題と国際政治経済 9回目　南北問題と国際政治経済 10回目　地球環境問題と国際政治経済 11回目　ＮＧＯ・市民社会と国際政治経済 12回目　国際紛争と国際政治経済 13回目　開発援助・復興支援と国際政治経済 14回目　科学技術・知的財産権と国際政治経済 15回目　まとめ：国際政治経済の未来像

授業に関連するキーワード			
	政治経済	国際関係	資源
	人口	食料	民族紛争
	エネルギー	地球環境問題	南北問題

成績評価の方法	小テスト６０％（４×１５回）、試験４０％（１回）

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考書	『新・国際政治経済の基礎知識 新版』	田中明彦ほか編	有斐閣	2010年
	参考書	『国際政治経済学新論』	川戸秀昭ほか編	時潮社	2013年
	参考書	『国際関係論』	佐渡友哲ほか編	弘文堂	2013年
	参考書	『世界を読む 国際政治経済学入門』	澤喜司郎	成山堂書店	2013年
	参考書	『国際政治経済学入門 第３版』	野林健一ほか	有斐閣	2007年
教科書・参考書等に関する記述欄	その他の参考書は、１回目の授業において提示する。				
自由記述欄	各回の講義内容に関しては参考書・配布資料を利用して予習を行うこと（１時間／週）。また、各回の講義内容に関して小テストを課す（４問程度）。授業の進行予定と進め方、成績評価の方法と基準、参考書などについて１回目の授業において説明するので、必ず出席すること。				

科目コード	51242003	単位	2	時間数	30
授業科目名	大学生活と学習－大学教育・学習論－	開講学期等	前期	時間割	火9・10
授業科目名英字	Campus Life and Learning II:Teaching and Learning in University				
備考		授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
細川　和仁	教育推進総合センター	学生支援棟2F	018-889-3188				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜9･10限	【場所】	学生支援棟2F教員室

授業の目的	授業の到達目標
大学における教育・学習の特徴や最近の動向について学び，大学での自らの学習を有意義なものにする手がかりを得る。	1）大学の教育・学習に関する基礎的事項について説明できる。 2）大学の教育・学習の課題について自分なりに問いを立て，論理的に述べることができる。 3）大学の教育ポリシー等に関して，他の受講者と建設的な意見交換ができる。 4）受け手を意識した発表，説明ができる。また，良い聞き手として他の受講者の説明を聞くことができる。 5）授業を通じて得た知識・技能・経験に対して，自分なりの意味づけができる。

カリキュラム上の位置付け	分野：教育学（24），水準：基礎（20）の主題別科目です。受講者は全学部，全学年を想定しています。
授業の概要	この科目では，大学における教育・学習の特徴や最新の動向について，教育学や学習論の観点から講義し，大学で学ぶことの意義について考えていきます。日本では大学進学率が急激に上昇してきました。そのことは，高等教育の普及という点から見れば望ましいことかもしれませんが，一方で大学の教育・学習の位置づけに大きな影響を及ぼしています。社会の中で大学に求められる機能・役割や，高校とのつながりなどの観点から，大学で学ぶことの意味について，あらためて考えてみましょう。
授業の進行予定及び進め方	取り上げるテーマは次の通りです。 1．大学教育・学習論へのいざない（第1回～第2回） ・ユニバーサル化する高等教育（大学進学率，大学「全入」時代，大衆化） 2．大学教育の３つのポリシー（第3回～第5回） ・大学の入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー） ・学位授与方針（「学士力」，「社会人基礎力」，コンピテンシー） 3．高校と大学のはざま（第6回～第8回） ・大学に進学する動機（学歴意識，不本意就学，満足度） ・大学の「学校化」と学生の「生徒化」（高校と大学，高校生と大学生，近代学校システム） 4．カリキュラムの接続（第9回～第11回） ・大学のカリキュラム（教養教育，専門教育，単位制，高校との接続，トランジッション） 5．大学授業の設計と評価（第12回～第14回） ・大学の授業改善（授業評価，良い授業，悪い授業，ＦＤ，学習意欲） ・大学授業のデザイン（シラバス，成績評価，到達目標） ・学びの技法（読む・書く・調べる・聞く・話す） 6．大学における教育・学習の課題（第15回） ・大学改革の担い手（学習する環境づくり） ・大学教育・学習の課題

授業に関連するキーワード			
	学習	大学教育	大衆化
	進学	カリキュラム	学習成果

成績評価の方法	成績評価は100点を満点とし，次の３つの課題に配点します。（参考：平成25年度のクラスGPA＝2.54） (1)　小リポート（30点）（到達目標４，５） (2)　大リポート（40点）……授業内容に関連するテーマについてのリポート。（到達目標１，２） (3)　リフレクション・ノート（30点）……各回の授業終了時に記入し提出する。（到達目標３，６）

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参	『高学歴社会の大学』	マーチン・トロウ	東京大学出版会	1993
	参	『大学の学び』	杉谷祐美子編	玉川大学出版部	2011
	参	『生成する大学教育学』	京都大学高等教育研究	ナカニシヤ出版	2012
	参	『学生による授業評価の現在』	東北大学高等教育開発	東北大学出版会	2010
	参	『初年次教育』	濱名篤，川嶋太津夫	丸善	2006

教科書・参考書等に関する記述欄	指定する教科書はありません。参考図書は，授業内容の理解を深めるのに役立ちます。
自由記述欄	各回の授業は，教員による講義と学生同士の意見交換を中心に進めます。 自分の考えを持ち，それを他者に伝えること，また他者の考えを聴くことを重視します。

科目コード	51112001	単位	2	時間数	30
授業科目名	倫理リテラシー	開講学期等	前期	時間割	水3・4
授業科目名英字	Ethics Literacy				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年生		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
銭谷　秋生	教育推進総合センター	2252	018-889-2252				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜　７・８限	【場所】	学生支援棟2階教員室

授業の目的	授業の到達目標
「善い」人間のあり方や「正義にかなった」社会のあり方を、原理的なところから問いなおし、根拠づけようとするのが、倫理学という学問である。この授業では、この学の原初の姿とその近代における展開を確認し、それを踏まえて、現代固有の倫理的問題を考察する。	1．「善き生」の条件となる諸原則を理解し、説明できる。 2．「正義にかなった社会」をめぐる、対立する諸構想を理解し、説明できる。 3．そのような倫理学的知見に基づいて、現代において生じている倫理的諸問題に取り組むことができる。

カリキュラム上の位置付け	本学の教育目標１の「社会の変化に柔軟に対応できる幅広い教養」ならびに教養基礎教育の目標２の「現代の諸問題の認識」に関わる科目である。
授業の概要	「単に生きるのではなく、よく生きることが大切である」というソクラテスの問題提起とともに倫理学的営みは始まった。しかし「善」とは何か。またそれは「正義」とどのように関連するのか。この講義は、倫理学の原初の問いを引き受けるところから始まり、その後の主だった展開を追跡し、現代に生じてきている倫理的諸問題と取り組むための足場を確保するところまで進む予定である。
授業の進行予定及び進め方	＜進行予定＞ 【導入】 1．ガイダンス：なぜ善や正義について考えなくてはならないのか 2．倫理学の原初の問い：ソクラテスの問いは何を問うものだったか 3．ソクラテスVSソフィスト：善らしくみせればそれでいいとする論理 4．現代の倫理的相対主義：ヒューム、エイヤーなど 【展開】 5．功利主義：ベンサムの論理 6．功利主義：ミルの論理 7．合理主義的倫理学：カントの論理 8．　〃 9．洗練されたカント主義：コースガードの論理 １０．現代の正義論：その１・ロールズの正義論 １１．　〃 １２．現代の正義論：その２・ノージックの自己所有権論 １３．　〃 【応用】 １４．パーソン論に基づく安楽死肯定論：シンガーの論理

授業に関連するキーワード			
	善き生	社会正義	倫理的相対主義
	最大多数の最大幸福	人間の尊厳	生命倫理

成績評価の方法	期末のレポート（授業内容に関連するテーマについてのレポート）で評価する。

教科書・参考書等

【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
参考書	『入門講義　倫理学の視座』	新田孝彦	世界思想社	2007年
参考書	『倫理学を学ぶ人のために』	宇都宮／熊野編	世界思想社	2007年

教科書・参考書等に関する記述欄	その他の参考文献は、その都度、講義の中で紹介していく。
自由記述欄	

科目コード	51112001	単位	2	時間数	30
授業科目名	倫理リテラシー	開講学期等	前期	時間割	水3・4
授業科目名英字	Ethics Literacy				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年生		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
銭谷　秋生	教育推進総合センター	2252	018-889-2252				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜　７・８限	【場所】	学生支援棟2階教員室

授業の目的	授業の到達目標
「善い」人間のあり方や「正義にかなった」社会のあり方を、原理的なところから問いなおし、根拠づけようとするのが、倫理学という学問である。この授業では、この学の原初の姿とその近代における展開を確認し、それを踏まえて、現代固有の倫理的問題を考察する。	1．「善き生」の条件となる諸原則を理解し、説明できる。 2．「正義にかなった社会」をめぐる、対立する諸構想を理解し、説明できる。 3．そのような倫理学的知見に基づいて、現代において生じている倫理的諸問題に取り組むことができる。

カリキュラム上の位置付け	本学の教育目標１の「社会の変化に柔軟に対応できる幅広い教養」ならびに教養基礎教育の目標２の「現代の諸問題の認識」に関わる科目である。
授業の概要	「単に生きるのではなく、よく生きることが大切である」というソクラテスの問題提起とともに倫理学的営みは始まった。しかし「善」とは何か。またそれは「正義」とどのように関連するのか。この講義は、倫理学の原初の問いを引き受けるところから始まり、その後の主だった展開を追跡し、現代に生じてきている倫理的諸問題と取り組むための足場を確保するところまで進む予定である。
授業の進行予定及び進め方	＜進行予定＞ 【導入】 1．ガイダンス：なぜ善や正義について考えなくてはならないのか 2．倫理学の原初の問い：ソクラテスの問いは何を問うものだったか 3．ソクラテスVSソフィスト：善らしくみせればそれでいいとする論理 4．現代の倫理的相対主義：ヒューム、エイヤーなど 【展開】 5．功利主義：ベンサムの論理 6．功利主義：ミルの論理 7．合理主義的倫理学：カントの論理 8．　〃 9．洗練されたカント主義：コースガードの論理 １０．現代の正義論：その１・ロールズの正義論 １１．　〃 １２．現代の正義論：その２・ノージックの自己所有権論 １３．　〃 【応用】 １４．パーソン論に基づく安楽死肯定論：シンガーの論理

授業に関連するキーワード			
	善き生	社会正義	倫理的相対主義
	最大多数の最大幸福	人間の尊厳	生命倫理

成績評価の方法	期末のレポート（授業内容に関連するテーマについてのレポート）で評価する。

教科書・参考書等

【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
参考書	『入門講義　倫理学の視座』	新田孝彦	世界思想社	2007年
参考書	『倫理学を学ぶ人のために』	宇都宮／熊野編	世界思想社	2007年

教科書・参考書等に関する記述欄	その他の参考文献は、その都度、講義の中で紹介していく。
自由記述欄	

科目コード	51232001	単位	2	時間数	30
授業科目名	心理学Ｉ－心の科学史－	開講学期等	前期	時間割	月3・4
授業科目名英字	Psychology I:Introduction to Psychology				
備考	認定心理士指定科目。受講希望者が150名を越えた場合には、抽選によって受講生を選抜する。	授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
中野良樹	教育文化学部	教5-308	2591				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	金曜日　16:10～17:30	【場所】	研究室

授業の目的	授業の到達目標
人間の心は知・情・意の機能が三位一体となることで成立するといわれる。本授業では、これら三つの機能について古典的な心理学の実験や理論を学び、それを踏まえて最近の脳科学などの知見に結びつけ、人間の心の有り様について自分なりに理解し、考察できるようになる。	1）認知、記憶、感情などの機能について心理学の基本的な知見、理論を説明できる。（最終テストによって評価） 2）人間の心の仕組み、行動の原理について自分なりの考えを述べられる。（授業中に発言を求める） 3）授業で取り上げた心理学の知見や理論をもとに、自分なりの人間観を表現できる。（授業内のレポートで評価）

カリキュラム上の位置付け	認定心理士必修科目
授業の概要	【授業の概要】 最初に、知・情・意に関わる心のはたらきの中から、「知」の部分について視知覚、記憶、思考など認知心理学の知見を取り上げる。続いて、「情」と「意」のはたらきについて、動物の学習行動、作業記憶と自己意識、感情心理学などについて、比較心理学、認知神経科学、発達心理学などの知見を援用しながら説明する。
授業の進行予定及び進め方	1．心の科学への招待 ― 「心」への科学的アプローチとは 第１部　「知」の科学 2．視覚の冒険 ― 実験心理学の王道をゆく 3．人はいかにして世界を知るのか？(1) ― 形の知覚 4．人はいかにして世界を知るのか？(2) ― 主観的輪郭と遮蔽 5．人はいかにして世界を知るのか？(3) ― 立体視 6．直観から思い出まで ― 記憶の伝統的な分類法 7．記憶をつむぐメカニズム ― 記憶の体系化と精緻化 8．「忘れる」ことの幸せと不幸せ ― 記憶と忘却の神経心理学 9．人間の知、機械の知 ― 問題解決をめぐる認知科学と認知工学 10. 人間の賢さと愚かさ― ヒューリスティックスの心理学 第２部　「情と意」の科学 11. 人間と動物の心に境界はあるのか？ ― 行動主義心理学の興亡 12. 「自分を知る」のは人間だけなのか？―作業記憶から自己意識への展開 13. 心の進化の行く先―自己意識をめぐる比較心理学の発展 14. 「こころ」と「あたま」と「きもち」―前頭葉の認知神経科学 15. 私たちは悲しいから泣くのか、泣くから悲しいのか？ ― 感情をめぐる永い議論 上記の講義日程終了後に試験を行う
授業に関連するキーワード	認知心理学　生理心理学　感情心理学 心と脳
成績評価の方法	授業中に２回～４回の抜き打ちレポートを実施する。レポートでは授業の内容を理解した上で自分なりの考えを述べられるかを評価する（到達目標３）。レポートを実施した授業に欠席した受講生は、翌週の授業で担当教員からレポート用紙を受け取り、その翌週の授業で提出する。これ以外の方法での提出は認めない。欠席が事前に報告されていない場合は、評価は大幅に下がる。最終週の試験では授業で取り上げた心理学の知見や理論に関して基本的な説明を求める（到達目標１）。レポートの評価と試験の点数をそれぞれ50%とし、総点が60点以上の受講生に単位を認める。なお、試験の欠席は原則認めない。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51132003	単位	2	時間数	30
授業科目名	日本の古典文学	開講学期等	前期	時間割	水5・6
授業科目名英字	Japanese Classic				
備考	受講人数上限を50名とする。	授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	日本文化基礎論III、日本文化論	履修する際に前提とする授業科目	なし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
志立正知	教育文化学部日本・アジ	教文3-132	018-889-2611				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日13:00～14:20	【場所】	教3-132（志立研究室）

授業の目的	授業の到達目標
日々の暮らしのなかで、何かに悩んだり迷ったりしたとき、古典を紐解いてみると、ちょっと心が軽くなったり、問題解決のヒントが見つかったりします。古典に対する知識や理解を深めることで、先人達の知恵に学ぶとともに、現代日本文化や日本人としての私たち 自身のアイデンティティを形成している文化的伝統を自覚的に扱う意識を育てることを、本授業の目的とします。	1．基礎的教養としての古典文学に対する知識を習得し、古典に親しむことができる。 2．作品の歴史的・思想的背景に対する基礎的知識を身につけ、それについて説明できる。 3．古人の知恵に学び、現代が古典から継承しているものについて、自らの力で考え論じることができる。 4．自らの意見を積極的に発信するともに、他者の意見に耳を傾け、効果的な議論ができる。

カリキュラム上の位置付け	幅広く深い教養、多角的でしなやかな思考力、総合的かつ自律的判断力を培い、豊かな人間性を涵養するという教養教育の目的に即し、大学人として必須の日本文化に対する基礎的理解と、それに根ざして今・自分を捉え直す力を身につけることをねらいとしています。目的主題別科目としては、人文科学分野における「学問の体系」を重視します。
授業の概要	【授業の概要】 古典文学作品、は先人達の英知の結晶です。そこには、当時の文化・思想などの伝統がさまざまな形で投影されています。それが今日なお読みつがれているのは、そこに普遍的な「人間」に対する深い洞察が潜んでいるからです。だからこそ、古典作品は今日なお生き生きとした光を放っているのです。 授業では、今日もっとも親しまれている古典のひとつである『徒然草』を扱います。『徒然草』の内容は多様で、ときに真摯な求道者的側面を見せるかと思えば、極めて実利的な実生活に即した処世訓を記したりもしています。だからこそ、時代や状況によってさまざまな読み方がなされてきた
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1．古典・テキストという概念について〔概説〕 2．中世的価値観の誕生と現代 3．『徒然草』前後―兼好の生きた時代とその前後― 4．『徒然草』の構成 5～7．若き兼好と『徒然草』―序～三十段前後―　　貴族的価値観・無常の肯定・隠棲への志向 8．詠嘆的無常観から積極的無常観へ 9～10．無常との対峙【課題１】　　「無常迅速」の認識・「寸陰愛惜」・「諸縁放下」 11．兼好の無常観のまとめ・兼好の眼差しとは〔課題１レポート提出〕 12～13．兼好の眼差しと現実感覚【課題２】　　処世訓としての『徒然草』・『徒然草』の笑話 14．王朝への憧憬〔課題２レポート提出〕 15．まとめ

授業に関連するキーワード			
	中世(鎌倉末～南北朝)	無常観	人間観
	自然観	隠遁	伝統的美意識
	帰属的価値観		

成績評価の方法	1）レポート２回（各30%） 2）課題に対する発言（20%） 3）リフレクション・ノート（毎回授業終了時に記入・提出、20%） 上記の総合で100点満点中、60点以上を合格とする。 出席時数の取り扱いは、「単位認定の決まり」による。

教科書・参考書等

【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	*テキストは、各自、書店・生協などで用意すること。
自由記述欄	レポートでネットからのコピー等が発覚した場合には、即座に不可とします。

科目コード	51242004	単位	2	時間数	30
授業科目名	教育学Ⅰ－現代社会と教育－	開講学期等	前期	時間割	金5・6
授業科目名英字	PedagogyI:Modern Society and Education				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐藤修司	学校教育課程	教文５号館503室	018-889-2541				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	金曜16:00-17:00	【場所】	教文５号館509室

授業の目的	授業の到達目標
学校教育にとどまることなく、生涯にわたる人間の発達をトータルに捉え、現代社会における教育のありようをさまざまな角度から分析する。	教育の側面から人間存在の現代社会における位置と課題・展望についての認識を獲得し、それを通して自らの成長過程・学校体験を相対化し、自己の存在を未来に向けて開いていく契機とする。

カリキュラム上の位置付け	教育学関連科目の導入的位置にある。
授業の概要	【授業の概要】 現代社会と教育のありようについて、さまざまな映像資料を基本にしながら考える。教育や学校、教師、そして、学校が抱えるさまざまな課題について考察を深める。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 ①オリエンテーション：教育について考える ②学校について考える(1)：映画『学校』を素材に ③学校について考える(2)：　　〃 ④教師について考える(1)：プロフェッショナルとしての教師 ⑤教師について考える(2)：　　〃 ⑥子どもについて考える(1)：夜回り先生を素材に ⑦子どもについて考える(2)：　　〃 ⑧体罰・懲戒について考える ⑨校則・子どもの人権について考える ⑩受験競争について考える ⑪いじめについて考える ⑫不登校について考える ⑬引きこもりについて考える ⑭戦争・平和と教育について考える ⑮グループ別検討会 授業内でレポートを作成し、発表するなどのことを行う。

授業に関連するキーワード			
	学校	教師	子ども
	人権		

成績評価の方法	履修カード・授業内レポート（30%）、レポート（30%）、最終試験（40%）

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	授業内で適宜指示する。
自由記述欄	

科目コード	51122003	単位	2	時間数	30
授業科目名	芸術と文化ⅢＡ－西洋美術の歴史－	開講学期等	前期	時間割	金3・4
授業科目名英字	Art and Culture IIIA:History of Western Art				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木千佳	教育文化学部・地域文化	教文3-126					

オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜　13:30～16:30	【場所】	教文3-126

授業の目的	授業の到達目標
古代ギリシアから現代までの西洋美術の歩みを概観し、各時代に特有の様式や作品のなりたちを各時代背景とともに学ぶ。造形文化が人間の世界に対する眼差しをあらわし、歴史とともに変化するものであることを理解する。	1）西洋美術史の基礎知識を習得し、作品の様式を見分けることができる。 2）西洋古典文化とキリスト教に関する基礎知識を身につけ、作品が生み出された文化的背景を理解することができる。 3）美術の歩みを具体的に知ることを通じ、作品が伝える意味や役割とともに時代の芸術観を捉えることができる。

カリキュラム上の位置付け	西洋の具体的な美術作品を例に、基本的な美術史の流れを知ることにより、一般教養としての芸術の理解を助け西洋文化にアプローチする方法を身につけようとするものです。
授業の概要	【授業の概要】 古代ギリシアから現代までの西洋美術史の流れを概観する。基本的に一講義につき一つの時代と様式についてスライドを見ながら作品の内容を説明する。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 第1回　０．イントロダクション 第2回　１．古代ギリシア・ローマ美術 第3回　２．初期キリスト教美術と中世の美術 第4回　３．後期ゴシック美術とプロト・ルネサンス美術 第5回　４．初期ルネサンス美術 第6回　５．盛期ルネサンス美術（１）フィレンツェ、ローマ 第7回　盛期ルネサンス美術（２） 第8回　初期～盛期ルネサンス美術（３）ヴェネツィア、その他の地域 第9回　６．北方ルネサンス美術 第10回　７．マニエリスム 第11回　８．バロック美術 第12回　９．ロココから新古典主義へ 第13回　10．19世紀の美術（ロマン主義・写実主義・印象主義） 第14回　11．19世紀末～20世紀の美術（後期印象派以降） 第15回　12．現代の美術

授業に関連するキーワード	西洋美術	様式	主題
	芸術家		

成績評価の方法	平常点（出席およびレスポンス・カード：意見・感想・疑問点などの簡潔なまとめ）40%と期末筆記試験（語句説明および論述問題）60%

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参	『増補新装　カラー版西洋美術史』	高階秀爾監修	美術出版社	2002年

教科書・参考書等に関する記述欄	参考図書については授業中に適宜指示するが、講義と並行して西洋美術の通史を参照することが望ましい（高階秀爾監修　増補新装『カラー版西洋美術史』、美術出版社、2002年など）。
自由記述欄	講義時間外にも図書館等で美術全集などの図版を積極的に見ると同時に、展覧会などの機会を利用して実際の美術作品にふれ、関心の幅を広げるよう心がけてほしい。

科目コード	51732001	単位	2	時間数	30
授業科目名	情報デザイン入門－わかりやすさのデザイン－	開講学期等	前期	時間割	金3・4
授業科目名英字	Introduction to Information Design				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部　１・２・３・４年		
内容的に密接に関係する授業科目	なし	履修する際に前提とする授業科目	なし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石井宏一	教育文化学部	教育文化学部１号館1-311　電話	手形キャンパス：018-889-2670				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	毎日　12：10から12：50まで	【場所】	教育文化学部１号館1-311

授業の目的	授業の到達目標
情報デザインの背景とその基本的な考え方を理解する。	情報デザインの考え方をもとに、世の中に存在する問題を解決しようとする姿勢を身につける。

カリキュラム上の位置付け	本講義は、決して美術やデザインを専攻している人のためだけのものではない。情報デザインという考え方が、世の中のあらゆる場面における問題解決に役に立つことを理解してもらいたい。
授業の概要	「わかりやすさのデザイン」をキーワードに、「情報デザイン」について理解を深めるとともに、社会活動などの実際的な場面で情報デザインを具体的に展開するための方法論の習得を目標とする。本講義では、まず情報とデザインの関係性、及び情報デザインの基本的な考え方を概観した後、情報表現の基本技法について学ぶ。またこれらを基礎として、情報を基軸とした「わかりやすいデザイン」を実現していくための具体的な方法論について、実際の情報デザインの展開事例と結びつけながら学習する。
授業の進行予定及び進め方	授業の進行予定は以下のとおりです。 （1）イントロダクション　「情報」＋「デザイン」＝「情報デザイン」！？ （2）情報デザインはなぜ生まれたのか？ （3）デザインの歴史の中での情報デザインの歴史 （4）情報とは何か？　「インテリジェンス」と「インフォメーション」 （5）デザインとは何か？　「問題解決」の方法論として （6）メディアの変遷とデザインとの関係 （7）情報伝達の仕組みと情報デザインの構造-１　「人間の感覚」と情報表現との関係 （8）情報伝達の仕組みと情報デザインの構造-２　「共感領域」をいかに形成するか？ （9）情報デザインのプロセス-１　情報の「発見」 （１０）情報デザインのプロセス-２　情報の「解釈」 （１１）情報デザインのプロセス-３　情報の「具現化」 （１２）分かりやすさをデザインする上で-１　「分ける」と「分かる」！？ （１３）分かりやすさをデザインする上で-２　それは「情報」ではない！？ （１４）社会における情報デザインの役割と機能 （１５）まとめ　「人間中心のデザイン」としての情報デザイン ※なお、毎回の授業の最後に小テストを行います。

授業に関連するキーワード			
	情報	デザイン	問題解決
	メディア	情報伝達	情報表現
	人間中心のデザイン		

成績評価の方法	出席率が２／３以上の者のみを成績評価の対象とします。成績評価は期末試験（７０％）、毎回の小テスト（３０％）で行います。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考書	『情報デザイン入門―インターネット時代の表現術』	渡辺保史	平凡社	2001
	参考書	『知の編集工学』	松岡正剛	朝日新聞社	2001
	参考書	『「分かりやすい表現」の技術』	藤沢晃治	講談社	1993
	参考書	『それは情報ではない』	リチャード・S・ワーマ	エムディエヌコーポ	2001

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51152001	単位	2	時間数	30
授業科目名	欧米の歴史	開講学期等	前期	時間割	木5・6
授業科目名英字	Introduction to European and American History				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐藤　猛	教育文化学部・欧米文化	教3－236	2666				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜14：30～16：00	【場所】	研究室（3－236）

授業の目的	授業の到達目標
グローバル化のなかで揺れ動く「国家」と「国民」という現代社会の枠組みを、ヨーロッパの歴史という視点から、いま一度みつめ直すことを目的とする。	その具体的な題材として、中世ヨーロッパとくにフランス王国における国家の誕生、成り立ち、発展の歴史を、具体的な歴史資料に基づいて検討することで、その特徴といわれる封建制、都市と農村の発展、王権、官僚制、法などの具体的な論点について説明することができる。

カリキュラム上の位置付け

目的主題別科目「人間発達と文化」の授業として、欧米社会が人類とその文化の発達に欠くことのできない役割を果たしてきたことをふまえ、その歴史の一側面を学ぶ。

授業の概要

<【概要～中世ヨーロッパにおける国家の成り立ちと発展～】>
現代世界においては、グローバル化のなか、国境がなくなりつつあるといわれている。そこでは、ヒトやモノそして情報が国境を越えて行き来する反面、いま現在存在する「国家」や「国民」という枠組が、世界や地域の一体化に反発するような現象も起きている。ヨーロッパに限っていうならば、昨今のユーロ危機に対する各国の思惑の違いがさまざまなメディアを通じて知らされ、私たちはいま、ヨーロッパで近代とともに生まれた国民国家がいかに大きな生命力をもっているかを、そして地域統合が国家や国民というまとまりを逆に強めている事態を目の当たりにしている。したがって、国家形成の歴史的背景を理解することは、現代を生きるわたし達の実践的な課題でもある。

授業の進行予定及び進め方

<【進行予定】>
第1回　授業テーマの意義および到達目標の解説
第2回　Ⅰ．フランス王国の原型・歴史資料について
第3回　〃　・カペー王朝の誕生
第4回　〃　・王、諸侯、城主
第5回　Ⅱ．封建社会と王権　・主従契約の仕組み
第6回　〃　・主従契約を結ぶための儀礼
第7回　〃　・都市と農村の発展
第8回　Ⅲ．王領土の明確化：　・国王役人の広がり
第9回　〃　・王領土の拡大と縮小
第10回　〃　・イングランド王との関係
第11回　〃　・百年戦争のインパクト
第12回　Ⅳ．王国のまとまり　・百年戦争による混乱
第13回　〃　・民の共属意識の発生
第14回　〃　・法の明確化
第15回　〃　・王と臣民の対話
学期末試験

授業に関連するキーワード

中世ヨーロッパ	国民国家	王権
領土	封建制度	国王役人
祖国愛	百年戦争	

成績評価の方法

1　試験期間に行う試験：６０％
2　テーマごとに行うアンケートた授業外の学習を含めた通常点：４０％
↓
１＋２を点数化して、６０％に満たない者を不可とする

教科書・参考書等

【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄

特になし（毎回プリントを配布し、そのなかで参考図書にふれる）

自由記述欄

授業以外の学習について、受講者は予習あるいは復習として、テーマの区切りごとに、授業中に配布した歴史資料を講読し、そこから何が読み取れるか、あるいは取り上げたテーマに関して何が明らかになるのかに関して、課題を提出する。

科目コード	51112005	単位	2	時間数	30
授業科目名	科学史・科学哲学	開講学期等	前期	時間割	月1・2
授業科目名英字	History and Philosophy of Science				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
勝守　真	国際コミュニケーション	教育文化学部3号館228号室	018-889-2648				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日14:30-16:00	【場所】	研究室

授業の目的	授業の到達目標
	“One travels not for the sake of arriving, but for the sake of travel itself” (Goethe).

カリキュラム上の位置付け	
授業の概要	Why does it rain? “Because steam in the air condenses into water or ice drops, which are subjected to the earth’s gravity . . .” -- such an explanation is considered scientifically correct. But is it wrong to answer, for example, “It rains in order that the earth is moistened and plants grow”? Many people before modern times, say, in ancient Greece, might have answered this way. Then, when and how was the modern scientific approach to nature established? And what roles is it playing in the world today? In this course, we will compare the premodern and the modern views of nature, and focus on the way modern science conceives nature
授業の進行予定及び進め方	For the sake of our health and the environment, the use of air-conditioning will be avoided as far as possible. For this purpose, we will probably finish the course well before the end of the semester (before it becomes very hot) after having some make-up sessions in advance.
授業に関連するキーワード	
成績評価の方法	試験（論述式、主として英語で解答）

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51222005	単位	2	時間数	30
授業科目名	障害と共生Ⅱ－自立と社会参加－	開講学期等	前期	時間割	火3・4
授業科目名英字	Mainstreaming of People with Disabilities II:Disability and Coexistence - Independent Living -				
備考		授業の形式	「講義」	必修・選択	「選択」
		受講対象学生	全学部 1～3学年		
内容的に密接に関係する授業科目	「障害と共生I」と関連する授業である。	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
大城英名	教育文化学部	教文4-510	018-889-2534				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	講義時間以外随時	【場所】	大城研究室

授業の目的	授業の到達目標
障害があってもなくても、みんなと共に暮らし、働き、生きていくことのできる「共生の社会」の大切さを理解する。	1）障害のある人びとにとっての「自立」とは何か理解することができる。　2）障害のある人もない人も「共に生きる社会」がノーマルであることを理解することができる。 3）障害の「医学モデル」のみならず「社会モデル」の重要性について説明することができる。

カリキュラム上の位置付け	教養教育科目「人間と人権」の「障害と共生」の１つとして設定。
授業の概要	授業では、障害のある人々が社会で自立的に生きていくドキュメンタリーを取り上げながら、障害がある人々もない人々も「共に生きる社会」が大切であることの理解を深める。
授業の進行予定及び進め方	第１回　障害とは何か、自立とは何か 第２回　ヘレン・ケラーの輝き 第３回　あたりあえの暮らしを求めて：全盲の夫婦の子育て 第４回　家屋の絆を見つめて：共生への問いかけ 第５回　共生への道：町に出て町を変える 第６回　地域で自分らしく生きる：グループホームで暮らす 第７回　重度障害者の自立生活：自分らしく暮らしたい 第８回　働く場を求めて：就労と自立 第９回　見えにくい障害の理解：高機能自閉症・アスペルガー症候群 第10回　見えにくい障害の理解：ＡＤＨＤ（注意欠陥多動性障害） 第11回　見えにくい障害の理解：ＬＤ（学習障害） 第12回　10年継続すれば！ 第13回　アヴェロのや野生児から学ぶ 第14回　中途障害とリハビリテーション 第15回　人間の最大の務め：しっかり生きつづける（高橋竹山と小林ハル ） ＊授業の実施順序および内容は若干変更するときがある。

授業に関連するキーワード			
	障害	共生	ノーマライゼーション
	自立生活	地域生活	就労
	リハビリテーション		

成績評価の方法	出席状況40%、毎回の小レポート60%、総合的に評価し60点以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51142005	単位	2	時間数	30
授業科目名	多文化コミュニケーション入門Ｉ－他者の文化を発見	開講学期等	前期	時間割	木7・8
授業科目名英字	Invitation to Multicultural Communication I				
備考	40名以内。人数が多い場合，課題により選考する。受講希望者は1回目の授業に必ず出席すること。	授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1・2（3・4）年		
内容的に密接に関係する授業科目	「多文化コミュニケーション入門II」「日本文化入門I／II」「多文化間交流論I／II」「日本教育学入門I／II」	履修する際に前提とする授業科目	なし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木良造 Ryozo,	国際交流センター	般1-2階 205	018-889-2938				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	金 14:30-16:00	【場所】	研究室（般1-2階）205

授業の目的	授業の到達目標
母語あるいは文化的背景を異にする者の間では違いが目立ち，違いを理解，受容するためには話し合わなければならない。この科目ではグループワークを通じて，違いの理解，受容の過程を体験し，異文化理解の一端となることを目的とする。	(1) 母語あるいは文化的背景を異にする者の間の違いを理解，受容する態度を涵養する。 (2) 他者と協力して課題を進められるようになる。

カリキュラム上の位置付け	ここでは，母語・文化的背景を異にする者たちが，協力して課題に取り組む。その過程で，異なる意見を持つ人と円滑に意見が交換できるようになること，他者と協力して課題を進めることができるようになる。
授業の概要	学生グループによるグループワーク，グループワークの経過発表，相互評価を行う。グループワークに積極的に参加し，グループに貢献できる態度が望ましい。
授業の進行予定及び進め方	1) オリエンテーション 2) ～ 7) グループワーク 8) 中間発表 9) ～ 13) グループワーク 14) 最終発表および最終レポート提出 15) レポートの相互評価・自己評価
授業に関連するキーワード	多文化 / コミュニケーション / グループワーク 異文化理解
成績評価の方法	1) 中間発表・最終発表 30% 2) 最終レポート 30% 3) 授業への積極的な参加 30% 4) レポートの相互評価・自己評価 10%

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	適宜プリントを配布する。
自由記述欄	受講希望者は1回目の授業に必ず出席すること。

科目コード	51142007	単位	2	時間数	30
授業科目名	多文化間交流論Ⅰ－異文化コミュニケーションの実	開講学期等	前期	時間割	月3・4
授業科目名英字	Improving Cross-Cultural Communication Skills				
備考	授業はすべて英語でおこなう。受講人数は交換留学生もあわせて30名程度 The entire course will be conducted in English.	授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部学生および交換留学生		
内容的に密接に関係する授業科目	多文化間交流論Ⅱ（旧「多文化間交流論」）、多文化コミュニケーション入門Ⅰ・Ⅱ	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
R. Miyamoto	国際資源学部・資源政策	教文3-229	018-889-2688				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	Wed. 14:30-16:00	【場所】	Miyamoto Office（教文3-229）

授業の目的	授業の到達目標
異なる文化背景を持つ相手とのコミュニケーションの方法について考え、実践する。 The object of the course is to improve cross-cultural communication skills through multi-task group work. Focus will be on comparison between Japanese and other communication styles.	By the end of this course, students should be able to: -learn cultural and social implications of Japanese communication. -compare and contrast the Japanese way of communicating with their own way. -understand their own ways of communications. -find ways to cope with communication conflicts. （1）言語、出身地、学部、性別など、様々な文化的背景を持つ学生同士で交流を行う （2）自分の文化や考えを客観的にみることができ、英語で説明できるようになる

カリキュラム上の位置付け	
授業の概要	【授業の概要】 この授業は、異文化コミュニケーションの理論に関する講義と演習の授業および、講義時間外での合宿（５コマ分）からなる。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定及び進め方】 ＜講義と演習＞　第1回授業～第10回授業 異文化コミュニケーションの理論とスキルに関する講義と、コミュニケーションゲームや討論などのグループ活動を通して、受講生間の交流を深め、必要なスキルを考え、実践してみる。 ＜講義外実習＞　5コマ分 講義後半に合宿を行う（1泊2日または2泊3日）。 ※　合宿および発表会については、第1回目の授業で詳細を説明する Class 1-10: Getting to know one another through various communication games and learn some basic knowledge of Japanese communication styles. Students will produce a video clip about topics such as experience of international students, communication gaps in Japan etc. Students will exercise communication skills in the group work. Camp: Towards the end of the course, there is a camp outside of campus in which students will practice cross-cultural communications skills that they learned in the previous lessons. Details will be announced in the first class.

授業に関連するキーワード			
	異文化コミュニケーション	コミュニケーションスキル	ピアラーニング
	異文化衝突	多文化共生	

成績評価の方法	授業参加度30%、発表3回（授業中2回と発表会1回）30%、最終個人レポート40% Grading Percentages of course components that comprise your grade -(A) Class Participation 30% -(B) Mid-term Reports (2 Case studies and 1 presentation) 30% -(C) Final Report 40%

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	There is no need to buy any textbooks. Necessary materials will be given in class. Reference books will be introduced in class for your further studies. If you wish to read a good book on intercultural communication, the above book is recommended.
自由記述欄	*All lectures and activities will be conducted in English. If there are too many students who wish to enroll in this course, there may be selection by English proficiency.

科目コード	51342003	単位	2	時間数	30
授業科目名	自然環境と資源Ⅰ－地球環境と化学元素－	開講学期等	前期	時間割	月1・2
授業科目名英字	Natural Environment and Resources : Global Environment and Chemical Elements				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目	特にありません。		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講	教文3-218	2622				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日、13時から14時30分まで	【場所】	教文3-218

授業の目的	授業の到達目標
地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響についての理解	1，元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。 2，生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。 3，人間活動により生成した化学物質の環境への影響について理解し説明できる。

カリキュラム上の位置付け	環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。
授業の概要	【授業の概要】 地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響について、具体例をしめしながら講義します。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1，化学元素の定義と単位、記号 2，地球の構造 3，宇宙における元素の生成と存在量 4，地圏での元素の存在量 5．大気圏での元素の存在量 6，水圏、特に海洋における元素の存在量と移動 7，化学物質の毒性と必須性 8，生体における元素存在量と機能 9、微量化学成分の化学分析 10、水質および大気のモニタリング 11、光と物質の相互作用 12、大気の化学組成とその変遷 13、地球環境での炭素の存在量とその循環 14、地球規模での大気環境問題、(1)地球温暖化と二酸化炭素 15、同、(2)酸性雨と硫黄化合物 16、同、(3)フロン等の難分解性化学物質による環境汚染とまとめ

授業に関連するキーワード			
	地球環境	大気圏	海洋
	生体	化学元素	必須元素
	有毒元素		

成績評価の方法	授業3回目以降、毎回10分程度のマークシート形式の小試験を10回(９０％)，レポート課題1回（１０％）。 合否：小試験の成績が60%以上を合格とします。 履修放棄：出席日数が2/3に満たない者 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	参考書・教科書は用いません。プリント、OHP、プロジェクターを利用します。
自由記述欄	

科目コード	51322001	単位	1	時間数	15
授業科目名	天体観測入門－太陽・月・惑星－	開講学期等	前期前半	時間割	水11・12
授業科目名英字	Introduction to Astronomical Observation:				
備考	受講可能人数は上限25名です。それより受講希望者が多い場合は，初回の授業で抽選の上受講者を決定します。	授業の形式	演習・実習	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	なし	履修する際に前提とする授業科目	なし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
林 信太郎	教文	3号館311	0188892651				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日　8-10時	【場所】	教育文化学部3号館311

授業の目的	授業の到達目標
天体に親しみ，惑星科学・宇宙科学の教養レベルの知識を身につける。宇宙空間のスケールの大きさを，理解するとともに実感する。	天体望遠鏡の仕組みについて理解し、天体望遠鏡を操作でき、惑星や月を観察できる。 主な惑星の特徴を理解し、説明できる. 月の形成史を理解し説明することができる。 宇宙の大きさを実感し説明することができる。

カリキュラム上の位置付け	学問の進展：学生との討議を通じて，人類が未解決の問題について考える。 【解説】実習中，教員ー学生あるいは学生ー学生間で，宇宙や星，人類に未来について語り合います。人類の宇宙における位置づけについて大局的に考察するのがこの授業の究極の目的です。
授業の概要	【授業の概要】 定時に行なう演習・観察が4回，定時以外の観察が4回（予定；天候次第）
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 　重要な留意点：天体の状況，天候の状況に左右される。晴れるまで観測できない。 以下の内容と日程（暫定版）を予定している. #水曜日７・８に行なう授業 ・ガイダンス（第1回4／9；ガイダンスを行なう；受講希望者多数の場合は抽選で決定） ・天体望遠鏡の使い方（第2週4／16） ・木星の衛星に関する演習(第3週4／23，第4週5／7） ・太陽面観察（第3週4／23，第4週5／7） #夜間あるいは早朝に行なう授業 ・皆既月食の観察：4月15日（火曜日）17時50分集合。18時から20時まで　。 ・月の観察1と木星の観察（午後6時集合午後9時頃解散；5月7日から5月14日の最初に晴れた夜，ただし土日をのぞく；晴れなかった場合は翌月の同時期） ・月の観察2と土星の観察（午後6時集合午後9時頃解散；6月9日から6月13日の最初に晴れた夜） ・土星の観察（午後6時集合午後9時頃解散；5月15日から17日の最初に晴れた日） ・このほかにISSなどの観察を行います。 天体の運行状況や天候によって左右されるので，実習が予定通りには進みません。夜間や早朝の実験が多く，アルバイト等に支障を生じます．天体及び天候の都合を優先し、学生のアルバイトの時間帯は優先しないので，この点を了承の上受講すること。詳しい日程表は第１回の授業で資料を配布し説明する。

授業に関連するキーワード			
	天体望遠鏡	月	太陽
	惑星		

成績評価の方法	レポートによる。 出席数が2/3に満たない場合あるいは平常点が6割に見たない場合は不合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	時間帯がきわめて不規則です。観測ができるかどうかは天気次第ですので，夜間のアルバイトとの両立はかなり難しいものがあります。アルバイト等を優先する方の受講はおことわりします。毎年，受講希望者が定員の数倍になりますので，抽選になる可能性が高いと思います。

科目コード	51342004	単位	2	時間数	30
授業科目名	地球の環境と資源Ⅰ－地球の誕生と進化－	開講学期等	前期	時間割	水9・10
授業科目名英字	Global Environment and Resources IV B:Introduction to Geological Sciences				
備考	なし	授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	とくになし	履修する際に前提とする授業科目	とくになし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
（責）内田　隆	国際資源学部	工資２　B304	889-2652	佐藤時幸	国際資源学部	工資２　G214	889-2371
大場　司	国際資源学部	工資２　G307	889-2374				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日12：00～12：30	【場所】	工資２　B304

授業の目的	授業の到達目標
地層記録を素材として，地球科学的自然認識方法および地球上に発生する諸現象を学ぶとともに，地球誕生以来の地球史に関する認 識を深めることを目的とする。	１）地層が地球史のデータバンクであることを具体例にもとづいて説明できる。 ２）地質学的自然現象認識方法を解説できる。 ３）地球史が単なる漸進的変化ではなく，さまざまなイベントで構成されていることを理解できる。 ４）地震や火山噴火などの地質学的事象の発生を支配している統一的過程について説明できる。 ５）日本列島に自然災害が多発する原因を理解するとともに，日常生活のあり方について考察できる。

カリキュラム上の位置付け	本講義は目的・主題別科目のうち，「自然環境と地球」を構成する。受講するにあたって高校までの理科に関する平均的知識を必要とするが，特別な予備知識を前提しない。
授業の概要	詳細については、初回のガイダンスで説明する。
授業の進行予定及び進め方	基礎編 １．ガイダンス ２．地球の誕生：地球科学の基礎 ３．地層は時計である：地質学的認識の基礎 ４．古生物の進化の記録と地質時代区分：地質時代区分は何を根拠にしているか ５．年代を測る：地質時代はどのように測定されているか 各論編 ６．ワンダフルライフ；カンブリア紀の爆発：高等動物大量出現の時何が起こったか ７．大量絶滅の謎：恐竜やアンモナイトはなぜ一斉に地球上から姿を消したか ８．マグマの働き：火山噴火の正体 ９．火山噴火のタイプ：火山噴火はどのように起こるか １０．地層の形成と変形、地殻変動：地層のできかたと構造運動 １１．環境変動はなぜ起きる：地球の気候は驚くほど変化する １２．地球温暖化は本当か？：地球は生きている １３．将来のエネルギー？メタンハイドレート：エネルギー資源の救世主になるか 総括編 １４．プレートテクトニクス：地球表層で進行している基本過程 １５．地下の地層の状態を探る：地下の地層の様子から地史を解釈しエネルギーを探査する

授業に関連するキーワード			
	地質学	古生物（化石）	進化
	マグマ	火山噴火	地球環境変遷
	プレートテクトニクス	ハイドレート	

成績評価の方法	出席の状況および期末の試験結果で判定する。６０点以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しないが，毎回の講義に資料を配付する．必要に応じて参考書を紹介する。
自由記述欄	

科目コード	51342005	単位	1	時間数	15
授業科目名	環境と社会Ａ－地域環境とインフラストラクチャー－	開講学期等	前期前半	時間割	木7・8
授業科目名英字	Environment and Society A:Regional Environment and Infrastructure				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
日野　智	工学資源学部	総合研究棟7F教員室	018-889-2359	浜岡 秀勝	工学資源学部	総合研究棟7F教員室	018-889-2974
徳重 英信	工学資源学部	工資1-412	018-889-2367	及川　　洋	工学資源学部	工資1-415	018-889-2360
松冨　英夫	工学資源学部	工資1-416	018-889-2363	渡邉一也	工学資源学部	工資1-420	018-889-2884

オフィスアワー	【曜日及び時間】	講義終了時にアポイントを取って下	【場所】	各教員室

授業の目的	授業の到達目標
われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後に具体的な整備例や自然災害事例について履修する。	1.社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。 2.地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。 3.社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境・災害を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。

カリキュラム上の位置付け	日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。
授業の概要	社会資本の整備理念と手法について学び，具体的な整備例を履修する．また，安全・安心な社会環境とするため，諸種の自然災害の基本についても学ぶ．
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 第1 回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について 第2 回：持続可能な都市・地域について 第3 回：環境に配慮した交通について 第4～6 回：社会基盤整備の中での鋼・木・コンクリート材料について 第7～8 回：地盤災害と水環境

授業に関連するキーワード			
	社会基盤	社会資本整備の理念	都市と交通
	建設構造物	建設材料	地盤災害
	水環境		

成績評価の方法	レポート（80 %）、出席状況等（20 %）を考慮して総合的に評価する。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51512002	単位	2	時間数	30
授業科目名	ライフサイエンスⅠ－生命の連続性－	開講学期等	前期	時間割	月3・4
授業科目名英字	Life Science I:Continuity of the Life				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	基礎生物学	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石井照久	教育文化学部	教文4号館309・2681	2681				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日16時-18時	【場所】	教文4号館309

授業の目的	授業の到達目標
1）生命は生命より生じ連続していく。ライフサイエンスのうち、この授業では生命の遺伝、生殖、進化などをミクロとマクロの両面から学ぶことによって、生命が誕生して以来、どのように現在までの道のりをたどってきたのかを理解することを目的とする。 2）ライフサイエンスの進歩の現状と、生命を取り巻く状況がどのように変化しているのかを理解することを目的とする。	1）生命観の歴史的変遷を説明できる。 2）地球上での生命の歴史を概説できる。 3）細胞のしくみ、生殖のしくみ、遺伝のしくみを説明できる。 4）現代の生命科学技術の概略を説明できる。 5）進化学を理解し、現代人の起源を説明できる。

カリキュラム上の位置付け	教育文化学部1年生で将来理系教員を希望する者は、専門分野のよい導入教育となるのでお勧めである。またその他の人にとっても21世紀に生きるうえで必須となるライフサイエンス（生命科学）関連の常識を解説する。
授業の概要	【授業の概要】 ライフサイエンスのうち、生命の遺伝、生殖、進化などをミクロとマクロの両面から解説し、生命が誕生して以来、どのように現在までの道のりをたどってきたのかを概説する。またライフサイエンスの進歩の現状と、生命を取り巻く状況がどのように変化しているのかを概説する。期末試験は持ち込みなしで行う。ただ出席しているだけでは単位が取得できない科目であり、受講生の主体性を求めるとてもきびしい科目である。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 以下1回目から15回目までの進行予定です。本授業では、教科書を使用しますので教科書をあらかじめ購入して下さい。また授業時に教科書を持参して下さい。授業では教科書の内容すべてを扱うことは無理なので、各自読み進めておいて下さい。授業で扱えない部分も非常に為になるので、ぜひ教科書を購入して読んで下さい。なお各項目の後に教科書以外で各項目に関連する参考図書のうち1冊を記載しましたので参考にして下さい。講義全体の参考図書は参考図書欄を見て下さい。αの部分は視聴覚教材を予定しています。 1.ガイダンス、第1章　生命観の変遷　1）生物学の始まり　「目でみる生物学（三訂版）」 2.第1章　生命観の変遷　1）生物学の始まり+α　「目でみる生物学（三訂版）」 3.第1章　生命観の変遷　2）自然発生説について　「目でみる生物学（三訂版）」 4.第2章　生命の誕生について　その1）　「図説　生物の世界（三訂版）」 5.第2章　生命の誕生について　その2）　「図説　生物の世界（三訂版）」 6.第3章　生命とは細胞とは　「好きになる生物学」「生物学超入門」 7.第4章　生命の連続　1）生殖　ES細胞　iPS細胞　STAP細胞　「遺伝子と夢のバイオ技術」 8.第4章　生命の連続　2）生命の連続性　「絵でわかる生命のしくみ」 9.第4章　生命の連続　3）遺伝子DNAとRNAとタンパク　「遺伝子時代の基礎知識」 10.第5章　現代の生命科学技術　1）人体製造－再生医療－+ α 11.第5章　現代の生命科学技術　2）遺伝子と医療+α 12.第6章　進化学　1）用不用説、獲得形質の遺伝説、自然淘汰（自然選択） 13.第6章　進化学　2）分子の進化、現在の進化説　「分子進化学への招待」

授業に関連するキーワード			
	生命	細胞	連続性
	遺伝子DNA	生命科学技術	進化
	ES細胞	iPS細胞	STAP細胞

成績評価の方法	出席率が2/3以上であることを前提とします。毎回出席をとります。 そして授業中の課題点（満点10点）と期末試験点（持ち込みなし）（満点90点）の合計が60点以上で合格とします。なお追試は行わないので注意してください。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『”生きている”ってどういうこと？生命のしくみを	種田、秋山	培風館	
	参考書	『目で見る生物学（三訂版）』		培風館	
	参考書	『遺伝子と夢のバイオ技術』		羊土社	
	参考書	『遺伝子時代の基礎知識』		講談社	
	参考書	『資源化する人体』		現代書館	

教科書・参考書等に関する記述欄	参考書（続き）：「遺伝子組み換え動物」「遺伝子組み換え（食物編）」以上現代書館　「分子進化学への招待」「好きになる生物学」「好きになる人間生物学」「絵でわかる生命のしくみ」「絵でわかる生物の不思議」「絵でわかる進化論」以上講談社　「図説　生物の世界（三訂版）」
自由記述欄	受講者数を制限することがあります。制限するかどうかは、初回と2回目で決めたいと思います。制限の詳細についても初回と2回目でお知らせします。

科目コード	51512003	単位	1	時間数	15
授業科目名	ライフサイエンスⅡA	開講学期等	前期後半	時間割	火7・8
授業科目名英字	Life Science IIIA				
備考		授業の形式	講義および演習	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
河又邦彦	教育文化学部	教育文化4号館312号室	018-889-2590				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	随時	【場所】	教育文化4号館312号室

授業の目的	授業の到達目標
遺伝学の知識が必要な事象が増えてきています。食品には遺伝子組換え作物があふれ，犯罪捜査にはDNAが欠かせません。最近では，遺伝子検査が流行し，病気の可能性から才能まで検査できるようになりました。遺伝は理解できれば大変面白い問題ですが，知らないとすべてがブラックボックスのように感じてしまいます。この講義では，このような遺伝現象を理解するための基礎として，メンデル遺伝を理解することを目的にします。内容は高校生物Iの範囲です。	1）遺伝子および形質とタンパク質の関係を理解する。 2）染色体の挙動を理解する。 3）メンデル遺伝についての簡単な入試問題を解くことができる。

カリキュラム上の位置付け	教養教育
授業の概要	メンデル遺伝の問題を解くことで，遺伝学の初歩を理解していきます。学生の理解度を把握するため，すべての人の顔と名前を覚えて授業を行いますので，１回目の授業で顔写真の撮影を行います。必ず出席してください。
授業の進行予定及び進め方	講義は以下の６項目にそって進めます。 この理解を深めるため，①-③の演習問題を用意しています。 1）身の回りの遺伝現象 2）形質とは 3）遺伝子とタンパク質 4）メンデル遺伝の法則 5）染色体の挙動 6）性染色体と遺伝子 演習：①一遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 ②二遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 ③伴性遺伝を理解するいろいろな問題

授業に関連するキーワード			
	メンデル遺伝	染色体	タンパク質
	減数分裂	伴性遺伝	DNA
	形質		

成績評価の方法	課題，試験により判定する。３回以上休んだ場合は再履修となる。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	高校生物のメンデル遺伝を習っていない人，習ったけれどほとんど理解できなかった人を対象にしています。

科目コード	51742001	単位	2	時間数	30
授業科目名	衣生活の科学	開講学期等	前期	時間割	火7・8
授業科目名英字	Family and Consumer Science IA:Clohing for Qualitical Life				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石黒純一	教育文化学部	教文1-304・889-2551	889-2551				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	金曜日、15:00～17:00	【場所】	教文1-304

授業の目的	授業の到達目標
衣服の性能と着衣の目的を理解し、生活の場において適切な衣服の選択と着用ができるようになる。	衣服の材料としての繊維・糸・布の関係を説明できる。 表現として衣服を着る場合のポイントを説明できる。 防御のために衣服を着る場合のポイントを説明できる。 現在の自分の着衣状態について説明と評価ができる。 他人の着衣状態について説明と評価ができる。

カリキュラム上の位置付け	現代と科学・技術の分野に配置されている科目であるが、「着る人」を前提にして我々の感性に密着した科学・技術を考えたい。
授業の概要	【授業の概要】 衣服に対する消費者の要求を次の８点にまとめ，それぞれについて，本講義の到達目標に則し，その要求内容，要求を満たすための衣服の性能とその実現状況について，それぞれ解説する。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 （０）ガイダンス　我々の衣生活システム （１）衣服の外観　　－衣服が表現するもの－ 　(1-1) 着衣の目的 　(1-2) 衣服の歴史 　(1-3) 衣服の構造 （２）衣服の着心地　－我々が衣服に求めるもの－ 　(2-1) 着心地とは 　(2-2) 着心地の評価 （３）取扱易さ　－繰り返し着用できる衣服－ 　(3-1) 繊維の材料と取り扱い 　(3-2) 衣類の管理と保管 （４）形態安定性　－古くなる衣服－ 　(4-1) 衣服の力学的性能 　(4-2) 衣服の性能に影響する諸因子 （５）環境形成　－衣服は我々の体の回りに微小環境を作る 　(5-1) 衣服の熱に対する性能 　(5-2) 衣服の水に対する性能

授業に関連するキーワード			
	衣生活	アパレル	快適性

成績評価の方法	評価方法：定期試験70%，講義に際し適宜行う小テスト（30%）。 判定基準：指定する内容が回答されているか。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51362003	単位	1	時間数	15
授業科目名	化学の世界－最新の化学－	開講学期等	前期後半	時間割	火5・6
授業科目名英字	The Chemical World				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	入門化学	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
小笠原正剛	環境応用化学科	環境資源学研究センター305	018-889-2445	松本和也	環境応用化学科	工資4-323	018-889-2745

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日　14:30～16:00	【場所】	環境資源学研究センター305（小笠原）

授業の目的	授業の到達目標
現代社会で話題になっている科学技術や身のまわりの物質について，「化学」が身近なところにあり，「ものづくり」において「環境に配慮した化学」（グリーンケミストリー）が基本になっていること，また環境問題を解決していくのも「化学の力」であることを学ぶ。	[1]有機・高分子化学，無機化学，プロセス化学，環境化学の身近な話題を取り上げることができる。 [2]化学的な考え方で身のまわりの物質やプロセス，システムについて説明できる。 [3]「化学物質」の正しい管理や使用方法について，いくつか例示して説明できる。

カリキュラム上の位置付け	化学という学問への導入教育の一つであり，化学への興味を喚起するために開講する。
授業の概要	【授業の概要】 化学への興味を喚起することを狙って、身近な事柄についての化学的な考え方（思考）や社会と「化学という学問」の繋がりを紹介する。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 以下の内容に関して2名の教員が分担して講義する。なお下記は予定であり、講師や順番の変更がある場合は適時連絡する。 [1]化学の眼で見る石油とその代替燃料 [2]宝石と鉱物の化学 [3]「分子」を見よう，扱おう，つくろう!! [4]結晶性無機化合物の合成と構造解析 ＜[1]～[4]の内容についてのレポート課題＞ [5]有機・高分子化学概論 [6]身の周りの有機化合物 [7]現代社会を支える高分子化合物 [8]環境問題と高分子材料，化学物質の安全管理，講義のまとめ ＜[5]～[8]の内容についてのレポート課題＞

授業に関連するキーワード			
	分子・原子	分析化学	有機化学
	高分子化学	無機化学	生化学
	化学プロセス	グリーンケミストリー（GC）	エネルギー

成績評価の方法	2回の課題レポートにより評価する。総合60%以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しない。プリント配布。PC、DVDなども使用する。参考書として、上記のほかに『商品から学ぶ化学の基礎』,松田勝彦著,化学同人(2011年);『元素検定』,桜井弘他著,化学同人(2011);「ビジュアル化学」Newton 別冊(改訂新版)，ニュートンプレス(2013)など
自由記述欄	分子や原子を操るのが「化学」である。楽しみながら一緒に「化学」を学ぼう！

科目コード	51382001	単位	1	時間数	15
授業科目名	材料の世界－暮らしと材料－	開講学期等	前期後半	時間割	火5・6
授業科目名英字	Materials Science: The World of Materials; Human Life and Materials				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
小玉展宏	工学資源学部	教文3-204	018-889-2650	原　　基	工学資源学部	工資3-413	018-889-2414
麻生節夫	工学資源学部	工資3-311	018-889-2413				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜７，８時限	【場所】	各教員室

授業の目的	授業の到達目標
今日の生活と暮らしの中に、深く入り込んでいる種々の材料と資源・環境・エネルギー問題との関連を取り上げる。特に、エネルギー変換材料、光学材料などの機能材料および鉄鋼材料などの構造材料に焦点を当て、それらの働きと応用例を講義する。 １）資源・環境・エネルギー問題に対する材料と材料技術の役割を理解する。 ２）金属・半導体・セラミックスの一般的性質を理解する。 ３）金属・半導体・セラミックスの応用例を理解する。	１）資源・環境・エネルギー問題に対する材料と材料技術の役割を説明できる。 ２）金属・半導体・セラミックスの一般的性質を説明できる。 ３）金属・半導体・セラミックスの合成・加工法と応用例を説明できる。

カリキュラム上の位置付け	材料工学・材料科学を理解するための導入科目である。
授業の概要	３分野の材料の基礎から応用までについて、オムニバス式で講義する。
授業の進行予定及び進め方	工学資源学部材料工学科３人の教員が各自の専門に近い内容を交代で講義する。 １．光学材料（小玉展宏） 　携帯電話や薄型テレビ（プラズマおよび液晶ディスプレイ、有機EL）、また次世代照明などに使われる発光ダイオード、蛍光体、　液晶などの光学材料の機能と役割を理解する。併せて、エネルギー・環境・元素資源の問題と光学材料との関連を理解する。 　１）光学機能（発光・吸収現象）の基礎と発光ダイオードと蛍光体による発光のデモ。 　２）発光材料の役割とディスプレイへの応用、エネルギー問題との関連を説明する。 ２．エネルギー変換材料（原　基） 　化学、原子力、光などの各種エネルギーは最も使いやすいエネルギー形態である電気エネルギーに変換されて使用されている。本講義では、いろいろなエネルギー変換において重要な役割をする材料についてその概要を講義する。 　１）我が国で最も電力供給量の多い熱機関で使用される熱エネルギー/機械エネルギー変換材料について講義する。 　２）将来のクリーンエネルギー源として注目される太陽電池、燃料電池において重要な役割を果たしている材料について講義する。 ３．鉄鋼材料（麻生節夫） 　我々の日常を支えている鉄鋼材料の基礎と応用について講義する。 　１）種々の鉄鋼材料の特徴と用途について説明する。 　２）鉄鋼材料に不可欠な熱処理について、日本刀を例に説明する。

授業に関連するキーワード			
	エネルギー	金属材料	耐熱材料
	光学材料	鉄鋼材料	環境
	元素資源		

成績評価の方法	達成目標についてレポート提出を求め、各達成目標の達成率を評価する。具体的には、３つの講義分野から出された各々の課題について指定された期日までにレポートを提出する。成績はレポートにより評価し、全ての達成目標で60%以上の評価を得た者を合格とする。なお、欠席がいずれかの講義について２回もしくは合計３回に達したものはD評価とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	プリント配布あるいはプロジェクターを使用する。機能材料を使った実際の製品を一部紹介する。
自由記述欄	

科目コード	51402003	単位	1	時間数	15
授業科目名	情報工学の世界－現代情報技術の実際－	開講学期等	前期前半	時間割	火7・8
授業科目名英字	Information Technology:Current Topics of Information Technology				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	特になし	履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
責:五十嵐隆治	情報工学専攻	総合研究棟3F教員室・2963	018-889-2963	西田眞	情報工学専攻	理工V－407・2781	
水戸部一孝	情報工学専攻	理工V－504・2339		景山陽一	情報工学専攻	理工V－406・2786	
橋本仁	情報工学専攻	総合研究棟3F教員室・2780		横山洋之	情報工学専攻	理工V－507・2776	
高谷眞弓	情報工学専攻	理工V－309・2784					

オフィスアワー	【曜日及び時間】	授業時に各教員が通知する	【場所】	各教員室

授業の目的	授業の到達目標
現在，情報通信技術（ICT）は日常的にあらゆる分野で利用されている。その中の幾つかの課題に関する技術的な背景と活用状況を具体的に知ることによって，ICTの実際を理解する。	1）情報通信技術について説明できる。 2）情報通信技術が，社会においてどのように活用されているのかを説明できる。 3）情報通信技術と私達の身近な生活との関わりを列挙できる。 4）情報通信技術の具体的な長所と短所をそれぞれ列挙できる。 5）現状と比較し，情報通信技術の将来について自分なりの考えを説明できる。

カリキュラム上の位置付け	教養基礎教育の目標「６．本学に所属する教員の固有の専門的力量を，教養教育にも十分に発揮できるカリキュラム体制を目指し，それによる特色と効果を創出する」と深く関わる科目。また，目的・主題別としては，「学問の方法」を重視する。
授業の概要	本講義では，ＩＣＴを活用した伝承技術，XML，コンピュータの高信頼化技術，トラヒックエンジニアリング技術，ディジタル信号と情報通信技術，画像情報応用，リモートセンシングなどのICTに関するトピックスを取り上げ，ICTがどのように活用されているのかを理解する。
授業の進行予定及び進め方	１．リモートセンシングの世界 ・リモートセンシングとは何か，宇宙から見た地球の現状，見えるもの・見えないもの，過去から現在・未来へ：得られる情報の活用 ２．ＩＣＴを活用した伝承技術 ・モーションキャプチャ，バーチャルリアリティ，人の動作の記録，保存と再現技術，動作学習支援システム ３．XML：電子社会を構築する技術 ・XMLとは，XML関連技術，XML適用事例 ４．コンピュータの高信頼化技術 ・高信頼コンピュータの基本的考え方，フォールトトレラントシステム，ＬＳＩの高信頼化，テスト ５．トラヒックエンジニアリング技術 ・トラヒックとその特徴，トラヒックと通信品質，経路制御：最短経路とトラヒック平滑化 ６．ディジタル信号と情報通信技術 ・ディジタルとアナログ，信号伝送（情報の伝送），信号の変調と復調 ７．画像情報応用の可能性 ・バイオメトリクス，口唇の動きを用いた個人認証，コマンド入力システム ８．まとめ・試験

授業に関連するキーワード			
	ＩＣＴを活用した伝承技術	電子社会	フォールトトレラントシステム
	トラヒックエンジニアリング	ディジタル信号	バイオメトリクス
	リモートセンシング		

成績評価の方法	授業最終回の試験（配布資料の持込可）により評価し，60%以上を合格とする。 欠席3回の時点で評価はDとする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	適宜，資料を配布する。
自由記述欄	

科目コード	51712002	単位	2	時間数	30
授業科目名	コンピュータの科学Ａ－コンピュータ科学の基礎－	開講学期等	前期	時間割	火3・4
授業科目名英字	Computer Science IA:Fundamentals on Computer Science				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	コンピュータの科学II	履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
林　良雄	教育文化学部	教育文化学部４号館414号室	018-889-2761				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜　14：30～17：00	【場所】	教文4－414

授業の目的	授業の到達目標
コンピュータ科学の入門として、コンピュータ内部でのデータ表現および動作原理について理解する。	データのデジタル化について説明できる。 コンピュータ内部でのデータ表現が説明できる。 ブール代数の操作ができる 組み合わせ・順序論理回路について説明ができる。

カリキュラム上の位置付け	本講義は情報処理技術を習得する基礎教育として、重要なコンピュータの動作に関する基礎的知識を習得させるものである。
授業の概要	コンピュータの動作を理解するためにはコンピュータ内部での情報の表現の理解を必要とする。本講義では特に数値のコンピュータの内部表現について説明を行う。そのあと，内部で表現されたデータを処理する回路を理解するには論理回路が必須となる。本講義ではその数学的基礎であるブール代数を習得し，それを用いた初歩的な論理回路を紹介する。
授業の進行予定及び進め方	第１回　　ガイダンス 第２回　　基礎知識 第３回　　デジタル化について 第４～８回　データ表現について 第８～12回　ブール代数と組み合わせ論理回路について 第13～15回　順序論理回路について 全て講義で行い、板書を中心とするが、補助的にeラーニング教材も利用する。 授業の初めには前回の内容の復習テストを行う。また「データ表現について」、「ブール代数と組み合わせ論理回路について」、「順序論理回路について」の最後には小テストを行う。 基本的には教科書に従って行う。教科書巻末の演習問題は全ておこなっておくこと。また、授業外では下記の参考書や教科書で紹介されている文献を読んでおくと理解が進む。

授業に関連するキーワード			
	デジタル	ブール代数	論理回路
	アーキテクチャ	データ表現	

成績評価の方法	成績評価は復習問題の提出状況と3回の小テスト及びデジタル教材による学習を合計した点数で行う。 ・毎回授業の最初に前回の授業の内容の復習テストを行い、その場で回収する。合計30点 ・小テストは3回各20点合計60点であるが、最低2回受けるものとし、2回未満のものはDとみなす。なおテスト時に欠席したものの再試験は行わないものとする。 ・デジタル教材による学習をどの程度行ったかにより10点

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『計算機科学の基礎』	八村 広三郎	近代科学社	1989

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51452003	単位	1	時間数	
授業科目名	資源循環と科学－希少元素に注目して－	開講学期等	前期後半	時間割	金5・6
授業科目名英字	Resource circulation Society and Science-The case of rare metals				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
柴山 敦	工学資源学研究科	VBL棟3F教員室	018-889-3040(VBL担当事務)	久場 敬司	医学系研究科	医学部基礎医学研究棟5F情報制御学	
菅原 勝康	工学資源学研究科	工学資源学部４号館222室		石山 大三	工学資源学研究科	附属環境資源学研究センター218室	
齊藤 準	工学資源学研究科	附属環境資源学研究センター204室		吉村 哲	工学資源学研究科	附属環境資源学研究センター203室	
大川浩一	工学資源学研究科	工学資源学部２号館B209室		林 滋生	工学資源学研究科	附属環境資源学研究センター307室	

オフィスアワー	【曜日及び時間】	平日10:15～17:00	【場所】	学術研究課(VBL担当)

授業の目的	授業の到達目標
希少元素を中心として、資源開発、産業技術、リサイクル、環境、医療等の資源循環型社会の構築に関わる諸要素を、各科学分野の先端的研究を通して理解する。	・希少元素の科学的および経済的・産業的側面からの重要性を理解する。 ・希少元素の資源リサイクルと素材としての機能、役割、特徴および環境保全を理解する。

カリキュラム上の位置付け	初年度ゼミ相当の科学技術概論であり、基礎化学・基礎物理程度の内容を基本とした技術紹介等を行う。
授業の概要	【授業の概要】 希少元素(レアメタル)に注目した資源循環や素材利用などの科学技術を各講師が概論として説明する。主な講義内容は希少元素の特徴と資源リサイクル、探査、エネルギー、物理的性質、先端材料、生体影響、代替技術等に関する動向や最新技術であり、これらの項目を科学的な観点から解説する。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 (1)ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）の概要と見学（工学資源学研究科環境物質工学専攻、柴山 教授） VBLの見学を行い、VBLで進めている「希少元素の資源リサイクルと高度素材設計」プロジェクトを説明する。 (2)希少元素資源と経済（工学資源学研究科地球資源学専攻、大川 講師） 希少元素資源の世界的埋蔵量や分布、世界経済における重要性について講義する。 (3)希少元素と探査（工学資源学研究科附属環境資源学研究センター、石山 教授） 希少元素を含む鉱物資源の存在状態と探査について講義する。附属鉱業博物館の見学も行う。 (4)希少元素の分離精製技術（工学資源学研究科環境物質工学専攻、菅原 教授） 低エネルギー、低環境負荷型の希少元素分離精製技術について概説する。 (5)希少元素の物理的性質とその応用（工学資源学研究科附属環境資源学研究センター、齊藤 教授） 希少元素の物理的性質の発現機構とその工学応用を講義する。 (6)先端材料と希少元素（工学資源学研究科附属環境資源学研究センター、吉村 准教授） 希少元素の微量添加によって得られる各種先端工業材料を概観する。 (7)希少元素の生体影響（医学系研究科、久場 准教授） 希少元素の生体影響の研究の現状を講義する。 (8)希少元素の代替技術（工学資源学研究科附属環境資源学研究センター、林 教授） 希少元素を、他のありふれた元素で置き換える技術について解説する。

授業に関連するキーワード			
	希少元素	資源探査	分離精製
	資源リサイクル	先端材料	生体影響

成績評価の方法	毎回の講義時に課題を課し、総合点（100%）のうち60%以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	特になし				

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	この授業に関するお問い合わせ等については学術研究課（VBL担当)までご連絡願います(TEL:018-889-3040)。

科目コード	51512005	単位	2	時間数	30
授業科目名	食と健康－栄養の分子生物学－	開講学期等	前期	時間割	水1・2
授業科目名英字	Diet and Health: Molecular Biology of Nutrition				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
池本　敦	教育文化学部	教育1-204	018-889-2553				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜 14:30-17:00	【場所】	教育1-204（電話：889-2553）

授業の目的	授業の到達目標
栄養素の生体内での役割や遺伝子との関係を分子レベルで理解することで、食生活と健康との関わりの基礎科学を学ぶ。	1）栄養学の成り立ちとその生命科学における位置づけを理解する。 2）栄養素の機能を理解するための生化学と分子生物学の基礎を身につける。 3）代表的な栄養素の機能を分子レベルで説明できる。 4）食生活と生活習慣病との関わりや遺伝子組換え食品など、食の安全に関する最近の問題点を指摘・説明できる。

カリキュラム上の位置付け	食品成分や栄養素を題材として、生化学と分子生物学の要点を講義する。栄養学は生命科学の応用的領域であり、生物学や化学の知識を実生活に結びつけるような内容を取り扱う。高校の化学・生物の未履修者は本授業によって当該分野の内容に触れることができる。また、ヒトが生活していく上で必須な食の安全と健康に関する教養的題材を扱う。
授業の概要	1～3回は、総論として生命科学領域における栄養学の背景と分子栄養学の目的について概説する。また、分子栄養学の理解に必要な基礎知識（有機化学、生化学、分子生物学）を扱う。4～12回は、各論として、それぞれの栄養素を取り上げ、その生体内での役割と健康との関係を解説する。 13～16回は、再び総論に戻り、食と生活習慣病や肥満との関係、遺伝子組換食品について扱う。
授業の進行予定及び進め方	原則として1回の授業でそれぞれ下記の項目1つを講義する。 1）ガイダンス：生命科学領域における栄養学の成り立ちと目的 2）総論：生体を構成する物質と細胞 3）総論：分子栄養学とヒトの遺伝子 4）グルコース代謝と糖尿病 5）タンパク質・アミノ酸と生体機能 6）必須脂肪酸バランスと病態、食用油脂と健康（1） 7）必須脂肪酸バランスと病態、食用油脂と健康（2） 8）コレステロール代謝と健康 9）抗酸化物質やビタミンC・Eと活性酸素・フリーラジカル 10）β-カロチン・ビタミンAと視覚機能・遺伝子発現 11）ビタミンD・カルシウムと骨形成・細胞内情報伝達 12）必須無機元素の生体内機能 13）生活習慣病の遺伝子と栄養 14）肥満と遺伝子 15）遺伝子組換え食品 16）期末試験

授業に関連するキーワード			
	栄養	食品	生化学
	分子生物学	遺伝子	生活習慣病

成績評価の方法	出席票による授業要約30%、試験50%、レポート20%で評価する。ただし、出席率が2/3以上であることが単位取得の必須条件とする。詳細な評価基準は初回の授業で説明するが、出席は出席票を記入することによりとる。試験は出題範囲を分割して、複数回実施する。レポートは、最終講義の時に課題を提示する。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しないが、通じページ番号の付いた資料を毎回の授業で配布し、教科書的に使用する。従って、授業で配付された資料は全て毎回持参すること。また、参考書は適宜紹介する。
自由記述欄	

科目コード	51562001	単位	1	時間数	15
授業科目名	医学と健康ＩＡ－健康と疾患の基礎知識－	開講学期等	前期前半	時間割	火7・8
授業科目名英字	Medical Science and Health IB:Health and Disease				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	なし	履修する際に前提とする授業科目	なし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
後藤明輝	医学部		6062	美作宗太郎	医学部		6092
南條　博	医学部		6182	大森　泰文	医学部		6060

オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜７．８時限	【場所】	医学部基礎棟2階器官病態学講座研究室

授業の目的	授業の到達目標
健康と医学についての基礎的なメカニズムを学ぶ.	肉眼、顕微鏡での人体の観察を通じ（目で見て）、人体の正常、異常（病気）、そして死について理解する。

カリキュラム上の位置付け	教養基礎教育の目標「(6)本学に所属する教官の固有の専門的力量を、教養教育にも充分に発揮できるカリキュラム体制を目指し、それによる特色と効果を創出する」と深くかかわる科目、また、目的・主題別としては「学問の進展」を重視する.
授業の概要	【授業の概要】 病理学、法医学に関する基礎知識・用語の解説などを講義し、専門誌の内容が理解できるようにする。 いずれの学問領域も肉眼的観察、顕微鏡を用いた観察など”目で見て理解する”ことが基本となる。これらの知識は分子レベルでの理解と組み合わさることにより、健康と疾患に関するより深い理解へと受講者を導くであろう。
授業の進行予定及び進め方	4月8日：病気を目で見る（病理学入門）担当：後藤明輝 4月15日：法医学入門1　担当：美作宗太郎 4月22日：呼吸器疾患を目で見る　担当：後藤明輝 5月13日：法医学入門２　担当：美作宗太郎 5月7日：外科病理学入門（病理学と医療）担当：南條　博 5月20日：腫瘍・癌とは？　担当：大森泰文 5月27日：さまざまな疾患の病理学　担当：南條　博 6月3日：消化器疾患を目で見る　担当：大森泰文

授業に関連するキーワード			
	病理学	法医学	腫瘍
	健康		

成績評価の方法	出席状況（2/3以上）とレポート（提出必須）による評価.

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考書	『はじめの一歩のイラスト病理学』	深山正久　他	羊土社	2012

教科書・参考書等に関する記述欄	講義内容をさらに学ぶためには、ここに挙げた参考書が役立つ。
自由記述欄	

科目コード	51562003	単位	1	時間数	8
授業科目名	医学と健康ⅡＡ－女性の一生　精子・卵子から婦人病	開講学期等	前期後半	時間割	火9・10
授業科目名英字	Medical Science and Health II A-Woman's Life-				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
寺田幸弘	医学部・産婦人科		018-884-6160	熊谷　仁	医学部・産婦人科		018-884-6163
佐藤　朗	医学部・産婦人科		018-884-6163	佐藤直樹	医学部・産婦人科		018-884-6163
清水　大	医学部・産婦人科		018-884-6163	佐藤敏治	医学部・産婦人科		018-884-6163
熊澤由紀代	医学部・産婦人科		018-884-6163	佐藤惠	医学部・産婦人科		018-884-6163

オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜～金曜　13:00～17:00	【場所】	医学部産婦人科科医局

授業の目的	授業の到達目標
精子卵子から胎児、分娩、思春期そして婦人の病気まで女性の一生すべてを取り扱う産婦人科の仕事を通して、なくならない生命の流れを理解する。	精子卵子の形成からヒトの誕生までの基本的な知識を説明できるようになる。 婦人科臓器に発症する疾患に関しての基本的な知識を説明できるようになる。

カリキュラム上の位置付け	女性の一生に関して、その営みを理解し「いのち」について考察する。
授業の概要	【授業の概要】 以下の講義を通して女性の一生を俯瞰し、「いのち」を再認識していただきます。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 第1回　精子、卵子の形成、受精と胚の発育　寺田幸弘 第2回　性の分化　熊澤由紀代 第3回　生殖補助医療　熊谷仁 第4回　胎児の発育　佐藤惠 第5回　分娩　佐藤朗 第6回　思春期、性行為感染症　佐藤敏治 第7回　婦人の病気　良性疾患　清水大 第8回　婦人の病気　悪性疾患　佐藤直樹

授業に関連するキーワード			
	配偶子	受精	胎児
	分娩	性分化	思春期
	婦人科疾患		

成績評価の方法	・欠席3回の時点で評価はDとする。 ・8回の講義終了に800字以上のレポートを提出。 1）題名は「いのちに関して本講義を受講して考えたこと」 2）一般のＡ4レポート用紙で提出。学籍番号、氏名を書いた上で、上記内容について記載してください。タイトルのみ別紙にする必要なし。 3）〆切は、第８回講義の翌週火曜まで、教育推進課（教務担当）まで提出。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	・第1回の講義時に、この講義のシラバスを配布予定

科目コード	51802002	単位	2	時間数	30
授業科目名	医学と健康Ⅳ－障害と保健医療－	開講学期等	前期	時間割	月7・8
授業科目名英字	Medical Science and Health Ⅴ : disability and health care				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石川隆志	保健学科	B-408	6537	ほか保健学科教員			

オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜9･10時限	【場所】	保健学科B-408

授業の目的	授業の到達目標
1)人間の生活機能と障害について理解する。 2)身体的・精神的障害のある人への援助のあり方を理解する。	1)人の生活機能とその障害について説明できる。 2)人を取り巻く環境因子(制度・用具・態度など)について説明できる。 3)人を援助するための対人技能や環境整備について説明できる。

カリキュラム上の位置付け	この科目は障害を理解しようとする学生一般に向けた基礎科目である。
授業の概要	授業は講義形式を中心に進める。障害とそれにかかわる諸テーマについて、保健、医療、教育などさまざまな観点から講義する。
授業の進行予定及び進め方	第 1回　4/ 7（月）　担当：進藤伸一　「障害とは何か－国際生活機能分類の考え方」 第 2回　4/14（月）　担当：石川隆志　「障害と作業活動」 第 3回　4/21（月）　担当：工藤俊輔　「障がい者の自立支援と環境整備－バリアフリーと住宅改造－」 第 4回　4/28（月）　担当：佐竹將宏　「障害と医療技術」 第 5回　5/12（月）　担当：工藤俊輔　「障がい者の自立支援と国際協力」 第 6回　5/19（月）　担当：上村佐知子　「障害者に対するコミュニケーション技術」 第 7回　5/ 26（月）　担当：塩谷隆信　「病気と障害」 第 8回　6/2（月）　担当：岡田恭司　「紫外線対策」 第 9回　6/9（月）　担当：若狭正彦　「スポーツとショウガイ」 第10回　6/16（月）　担当：新山喜嗣　「こころの障害と保健医療」 第11回　6/ 23（月）　担当：久米　裕　「こころの障害とリハビリテーション」 第12回　6/ 30（月）　担当：高橋恵一　「発達障害に対するリハビリテーション」 第13回　7/7（月）　担当：津軽谷恵　「障害と日常生活活動」 第14回　7/14（月）　担当：湯浅孝男　「コミュニケーション障害」 第15回　7/ 28（月）　担当：大友和夫　「神経系と障害」 第16回　8/ 1（金）　担当：石川隆志　試験
授業に関連するキーワード	障害 / リハビリテーション / 保健医療
成績評価の方法	試験（90%）、学習態度（10%）。総合60%以上を合格とする。 欠席6回の時点で評価はDとする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51812004	単位	2	時間数	30
授業科目名	大学生と健康Ａ－上手に生きる為の基礎知識－	開講学期等	前期	時間割	木7・8
授業科目名英字	Students and Health A:A primer of mental and physical health for college students				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
苗村育郎	保健管理センター	2287		小林政雄	保健管理センター	2285	
円山啓司	非常勤講師	2286		佐藤 朗	非常勤講師	2286	
草薙宏明	非常勤講師	2286		後藤優子	非常勤講師	2286	
筒井　幸	非常勤講師	2286					

オフィスアワー	【曜日及び時間】	毎日　９：００－１７：００	【場所】	保健管理センター

授業の目的	授業の到達目標
複雑な現代社会の生活では心身共に成長期である青年にとっては，社会環境から多くのストレスに晒され日常生活で健康に生き抜く知恵が必要である。増加している成人病（癌，心臓病，脳卒中）の予防は青年期から徹底化する必要がある。この科目は青年が直面している心とからだの健康状況を認識し，将来の生活の支えとなることを目的として行う。	健康で創造的な生活を送るためのもっとも基本的な知識を心と体の両面において身につけることを目指す。身体面では各種の生活習慣病や，感染症，不眠症などの予防法を学び，心理面では性格，人間関係，神経症や鬱病から信仰の問題に至るまで幅広く取り上げる。

カリキュラム上の位置付け	心身の健康と社会生活のもっとも基礎的な部分を学ぶ。
授業の概要	【授業の概要】 １)人類はこれまでに経験したことのない未曾有の高齢化社会を経験している。これはたんに成人病の増加ということに留まらず，社会の各部署で個人がどう対処していくかという視点を明確にしておかないと，将来の人類の生存をも脅かしかねない。成人病や癌や痴呆の予防方法，エイズをはじめとする感染症などの基礎知識などについては青年期までに十分な理解を持っておくことが重要であり，日常生活の中での対処の仕方を学んでおくことが必要である。 ２）また，高度情報化社会への移行に伴い，経済・社会情勢が急速に変貌している。このストレスにたえて，人生を健康に生き抜くためには，ます
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 スライドとレジメのプリントはほぼ毎回使用する。授業に入りきらない課題も多いため、ほぼ１ヵ月に１本の割合でレポート提出を課する。（興味を持って調べて勉強することの楽しさを感じる学生は多い。）レポートは１本ずつ評価して、テスト成績に加点する。

授業に関連するキーワード			
	心と体の健康保健	成人病・うつ病・認知症	睡眠障害と心身の調子
	生活構造と人生・宗教	飲酒・喫煙の害と発癌	エイズ・妊娠・出産
	救急措置・海外渡航		

成績評価の方法	期末試験の結果と出席状況（毎回の質疑応答），及びレポートを統合して行う。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参	『新版　学生と健康』		南江堂	2011

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51812006	単位	1	時間数	15
授業科目名	生命と健康Ⅰ－現代日本に見られる生活習慣病－	開講学期等	前期前半	時間割	火9・10
授業科目名英字	Life and Health IA:Lifestyle-related diseases in				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	特になし	履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
清水徹男	医学部精神科学講座	本道キャンパス	884-6122	齊藤英知	医学部整形外科学講座	本道キャンパス	884-6148
吉冨健志	医学部眼科学講座	本道キャンパス	884-6167	橋本　学	医学部放射線医学講座	本道キャンパス	884-6302
柴田浩行	医学部臨床腫瘍学講座	本道キャンパス	884-6262				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日、水曜日の17:00~19:00	【場所】	医学部放射線医学講座教授室

授業の目的	授業の到達目標
この講義の目的は、健康の保持・増進を図るために重要なライフスタイルと健康についての基礎的な知識を習得し、自らが健康的な生活習慣を身につけるとともに、その知識を卒業後の社会生活のなかで活用できるようにする。また、現在、国民の死亡原因の第一位を占めるがんの診断、治療の方法を知り、がんを理解し、予防に努める。	1)生活習慣病やがんの概念を理解できるようになる。 2)食事、睡眠、スポーツ、嗜好品、ストレスなどが健康に与える影響について説明できるようになる。 3)視力維持の重要性を説明できるようになる。 4)健康な社会生活を送るためのライフスタイルの問題点を考察できるようになる。

カリキュラム上の位置付け	現代社会のあり方と健康との関係に興味を持つすべての学生を対象とする。予備知識は必要としない。 秋田高校の生徒にも公開される。
授業の概要	【授業の概要】 高校、大学と成人への過程を進む中で自身の健康だけでなく、他者の健康や生命にも心を配することができるように「生命と健康」について学ぶ。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 4月15日（火）　副題：日本人のがん　1　担当　柴田浩行（臨床腫瘍学） 　日本人に多いがんの成り立ちと治療方法 4月22日（火）　糖尿病性網膜症　担当　吉冨健志（眼科学） 　重大な失明原因、生活習慣病対策を若いときから考えよう 5月13日（火）　副題：放射線診断　担当　橋本　学（放射線医学） 　役に立つ放射線診療の話 5月20日（火）　副題：放射線治療　担当　橋本　学（放射線医学） 　放射線とノーベル賞 5月27日（火）　副題：現代社会と睡眠　担当　清水徹男（精神医学） 　現代人は睡眠を切りつめて生活している。その健康に与える影響は？諸君の睡眠・覚醒習慣について問いながら解説する。 6月3日（火）　副題：スポーツ傷害　担当　齊藤英知（整形外科学） 　近年のスポーツ熱に伴い、スポーツに関連した傷害の頻度も増加している。スポーツとの関連、頻度について概説し、予防に役立てたい。 6月10日（火）　副題：日本人のがん　2　担当　柴田浩行（臨床腫瘍学） 　日本人に多いがんの成り立ちと治療方法

授業に関連するキーワード			
	生活習慣	ライフスタイル	食事・睡眠・スポーツ
	ストレス	がん	視力
	放射線		

成績評価の方法	各担当教員ごとの配点とし、成績評価は総合評価とする。 配点は、レポート70%、学習態度30%、総合60%を合格とする。 欠席４回で評価はDとする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	必要に応じて授業の際に関連図書を紹介する。
自由記述欄	

科目コード	51792002	単位	1	時間数	15
授業科目名	生命と健康Ⅱ－環境安全学－	開講学期等	前期前半	時間割	水1・2
授業科目名英字	Life and Health II: Environmental Safety				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	環境関連専門科目	履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
村田勝敬	医学部	環境保健学・6085	884-6085	後藤　猛	理工学部	物質科学・2741	889-2741
林　滋生	理工学部	理工学研究センター・2758	889-2758	岩田吉弘	教育文化学部	教育文化３号館218	889-2622
石井範子	医学部	基礎看護学・6515	884-6515	武藤　一	医学部	環境安全センター・6192	884-6192

オフィスアワー	【曜日及び時間】	各教員のオフィスアワー	【場所】	各教員室

授業の目的	授業の到達目標
科学技術の発達は人類に多大な利益をもたらすが、一方で様々な環境問題の発生や開発された製品や技術を使用する際の安全性のリスクが生じる。今日、環境や安全に関わる問題を無視して健全で快適な社会生活・学園生活を営むことはできない。この講義では、環境と安全性に関する基礎的な知識を習得するとともに、勉学や研究過程でその知識を実践できる能力を養うことを目的とする。	1．環境安全学とは何か概説できる 2．環境中のリスクおよびハザードとは何か説明できる 3．環境評価、リスクコミュニケーション、環境マネジメントシステムについて説明できる 4．実験室における化学物質の安全取扱いについて説明できる 5．非化学系実験室における事故防止に関わる環境管理について概説できる 6．医療事象（抗癌剤、感染症）に関わる安全取扱いについて説明できる 7．環境に由来する疾病について概説できる

カリキュラム上の位置付け	専門課程での環境関係の講義を聴講するに必要な基本的知識および環境安全の基本的視点を提示する。
授業の概要	【授業の概要】 環境リスクとは何か、その所在を説明するとともに、環境リスクから身を守るために必要な知識、技能、制度を解説する。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 第１回（４月９日）「環境安全学と環境安全センターの役割」（村田勝敬・武藤　一） →環境安全の意義、および人と環境の関係を概説するとともに、環境安全センターの役割について講義する 第２回（４月16日）「環境安全の考え方と環境マネジメント」（後藤　猛） →リスク、ハザード、環境評価、リスクコミュニケーション、環境マネジメントシステムなどについて身の廻りの例を挙げて解説する 第３回（４月23日）「非化学系の実験室における環境・安全管理」（林　滋生） →電気機器、工作機械を用いる実験室における事故防止のための環境管理を講義する 第４回（４月30日）「実験室での化学物質の安全取扱いについて」（岩田吉弘） →実験室の安全確保の概要と、化学物質の性質に対応した安全取扱いについて講義する 第５回（５月７日）「環境汚染と健康影響」（村田勝敬） →環境有害因子による健康障害について講義する 第６回（５月14日）「医療の職場における危険因子と安全管理」（石井範子） →医療職場における抗癌剤などの危険因子の取扱いを含む安全管理について講義する 第７回（５月21日）「環境安全センターの見学」（武藤　一・村田勝敬） 第８回（5月28日）「環境安全センターの見学」（武藤　一・村田勝敬） →第７ないし８回のいずれかの見学会に参加してもらい、環境安全センターの実態を観察してもらう

授業に関連するキーワード			
	環境安全センター	環境マネジメント	環境汚染
	リスクコミュニケーション	リスクとハザード	医薬品安全取扱い
	化学物質と安全		

成績評価の方法	各回に課した演習またはレポートの平均点で60点以上を合格とする。 なお、「環境安全センターの見学」をしなかった者は自動的に不合格となる。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	特に指定はない。各教員が推薦する参考書。 もし可能であれば、宇井純著（合本）「公害原論」亜紀書房（2006年新装版）を読んでおくことが望ましい。
自由記述欄	

科目コード	51812007	単位	2	時間数	30時間
授業科目名	がん治療～検診・診断・治療・看取り～	開講学期等	前期	時間割	水9・10
授業科目名英字	Cancer Therapy-medical examination				
備考		授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部　1,2,3,4年生		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
安藤秀明	戦略的外科系医師養成プ	6471	884-6471	南條博	秋田大学医学部附属病院	6182	884-6182
他　非常勤講師							

オフィスアワー	【曜日及び時間】	I期　水曜日　９・１０時限（16:	【場所】	医学部　基礎講義棟第一講義室

授業の目的	授業の到達目標
がんに関わる基礎知識を理解・習得し、それに関わる医療・社会・患者組織などの実態を理解する。	1．がんの生物学的特性を説明できる。 2．日本・秋田におけるがんの疫学的事項を説明できる。 3．がんの検診・病態・診断法・治療について説明できる。 4．がん患者の精神・心理・社会的問題を説明できる。 5．がん治療における地域連携を説明できる。 6．多職種によるがん治療・ケアを理解出来る。

カリキュラム上の位置付け	がん治療を取り巻く環境や社会的対策、がん患者・家族にかかわる問題に関心をもつ学生・一般に向けた基礎科目である。
授業の概要	【授業の概要】 講義のみならず、チュートリアル方式による学生発表も行い、参加型学習を行う。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1．がんの生物学的特性 2．がん対策基本法（国の対策、秋田県のがん対策） 3．がん検診（疾患別対策、地域別対策、秋田県の現状） 4．がんの診断（がん診断技術、がん病理、キャンサーボード、診断におけるコミュニケーション、患者意志決定など） 5．がん治療（手術、化学療法、放射線療法、精神的サポート、チーム医療など） 6．キャンサーサバイバー（患者サポート、患者会など） 7．緩和ケア（がんに関わる症状緩和、精神的。社会的サポートなど） 8．終末期医療（看取り、地域医療、ホスピスケア、在宅医療など） 院外講師による講演 秋田県がん検診の現状・秋田県がん対策推進計画・終末期医療ホスピスケア・緩和ケア・地域がん治療・在宅治療連携・がん病理・患者体験談)

授業に関連するキーワード			
	癌	がん対策基本法	がん検診
	がん治療	緩和ケア	看取り
	チーム医療	がん予防	多職種連携

成績評価の方法	出席、講義毎のレポート提出、総括レポート

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	資料を随時配布する。
自由記述欄	毎回講義に関するレポート提出を行ってもらいます。レポートは講義終了後1週間以内に提出してもらい、それ以降は受け付けません。毎回のレポート評価点数と提出数で成績評価します。

科目コード	5140030	単位	2	時間数	30
授業科目名	社会と地域A－都市社会学の基礎－	開講学期等	前期	時間割	火3・4
授業科目名英字	Society and Community A: Introduction to the Urban Sociology				
備考	授業内容に関心のない人（単位取得のみが目的の人）は受講しないでください。	授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	（「教養基礎教育」では特になし）	履修する際に前提とする授業科目	（特になし）		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
和泉　浩	教育文化学部	教育文化学部3号館322	018-889-2649			izumi@ed.akita-u.ac.jp	

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜昼休みおよび研究室在室時	【場所】	教育文化学部3号館322

授業の目的	授業の到達目標
現代における地域と社会の諸問題・諸事象を社会学的視点からとらえるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基本的な理論と今日の理論展開について学ぶ。	1. 社会学とは、どのような学問なのか理解する。 2. 社会学の基本的な考え方を理解する。 3. 都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況を理解する。

カリキュラム上の位置付け	都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含みます。
授業の概要	【授業の概要】 授業の前半では社会学の基本的な考え方、社会学が誕生した社会的背景について説明し、後半に都市社会学の基本的な考え方、こんにちの都市研究について説明していきます。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 授業予定（以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します）。 第1講　授業についての説明 第2講　現代社会と社会学 第3講　啓蒙主義、近代科学と社会学 第4講　国民国家の形成と社会科学 第5講　産業革命と都市化 第6講　消費社会と都市 第7講　都市衛生と近代都市、都市と交通 第8講　国際化、グローバル化と都市 第9講　都市とモダニズムとポストモダニズム 第10講　都市とユニバーサルデザイン 第11講　都市社会学の主要な理論の潮流 第12講　ジンメルの都市論 第13講　シカゴ学派の都市社会学 第14講　「空間論的転回」以降の社会学と地理学1 第15講　「空間論的転回」以降の社会学と地理学2

授業に関連するキーワード			
	社会学	都市	社会理論
	空間論的転回	国家	グローバル化
	地域	消費社会	

成績評価の方法	授業に関連する内容についての小テストとレポートで成績を評価します。小テスト（40点）：授業内容について理解しているかの確認。レポート（60点）：授業の内容をふまえ、社会学の視点を理解し、自分の議論を展開できるかをみる課題を出します。 小テストおよびレポートの課題は授業内でのみ説明を行い、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などは行いません。授業を欠席する場合は、欠席届けを提出してください。 レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合、ネットや本の内容をそのまま写したと判明したレポートはDにします。レポートは英語でも可です。追試験・再試験は行いません。小テストを受けず、レポートだけ提出した場合は評価をDとします。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参	『都市空間の地理学』	加藤政洋ほか	ミネルヴァ書房	2006
	参	『鉄道旅行の歴史』	シヴェルブシュ	法政大学出版局	2011新装版
	参	『想像の共同体』	アンダーソン	書房工房早山	2007
	参	『監獄の誕生』	フーコー	新潮社	1977
	参	『地図の想像力』	若林幹夫	河出書房新社	2009

教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しません。参考文献（和書および英語の文献）は、授業の内容に関連するものを、そのつど各回の授業のなかで指示します。参考書をあらかじめ購入する必要はありません。
自由記述欄	講義形式の授業ですが、教科書を使用せず、また資料も配布せず、基本的に黒板に書きながら説明していくため、板書の量はかなり多いです。レポートは論文形式で、長めのものを書いてもらいます。

科目コード	51782002	単位	2	時間数	30
授業科目名	地理と地誌Ⅱ－自然地理学入門－	開講学期等	前期	時間割	火3・4
授業科目名英字	Regional Geography II: Introducing Physical Geography				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	地理と地誌I－地誌学入門－	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
林　武司	教育文化・文化環境講座	教文3-333	018-889-2664				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	金曜日3・4時限	【場所】	教育文化学部3号館333室

授業の目的	授業の到達目標
自然地理学は，人間の主たる活動の場である地球表層を対象として，空間（ローカル～グローバルスケール）を構成する様々な自然・人為要素の特性や関係性を明らかにしていく総合的・学際的な学問領域である．本授業では，地球表層の自然環境の成り立ちや相互関係，人間活動との関わり（災害や環境問題，資源・エネルギー問題など）について基礎的な知識を習得することで，地域社会とグローバル社会の関係性を理解することを目的とする．	自然環境のしくみと現状に関する基礎的な知識を学ぶことで， ・様々な環境問題や資源・エネルギー問題の本質を考えられるようになる． ・環境リテラシーの基礎を身につけ，科学的な根拠に基づいた判断基準を持てるようになる． ・環境倫理・環境正義に関する自分の意見を持てるようになる．

カリキュラム上の位置付け	地域社会とグローバル社会の関連性を自然地理学の観点から学習する．
授業の概要	本授業では，地球表層を地圏，気圏，水圏の3つの領域に分け，それぞれの領域について，自然環境の成り立ちや仕組み，人間活動に伴う変化について学習する．
授業の進行予定及び進め方	1.導入（第1回） 大学で自然地理学を学ぶことの意味を確認する． 2.地球の大きさと形状（第2回） 人間の活動基盤であり最大の資源である地球の大きさと形状について理解する． 3.地圏の環境：人間の生活の基盤である地圏の特性について理解する（第3～6回） 地球の構造と活動の仕組み，地球の活動と地形の成り立ち． 人間活動との関わり：災害，資源・エネルギー問題． 4.気圏の環境：地球を覆っている気圏の特性について理解する（第7～10回） 気圏の階層構造と大気循環，テレコミュニケーション，気候変動． 人間活動との関わり：大気汚染，酸性雨，地球温暖化． 5.水圏の環境：地球の自然環境を特徴づけている水圏の特性について理解する（第11～14回） 水の物理的・化学的特性，地球上の水の存在量と循環速度． 人間活動との関わり：資源としての水，バーチャルウォーター，ウォーターフットプリント． 6.まとめ（第15回） 自然地理学から見た地域社会とグローバル社会． 環境リテラシー，環境倫理，環境正義． 期末試験（第16回）

授業に関連するキーワード			
	自然環境	環境問題	環境リテラシー
	環境倫理	環境正義	

成績評価の方法	小テスト：単元ごとに実施（4×15=60%），期末試験（40%）

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	参考となる資料を，授業中に適宜紹介する．
自由記述欄	

科目コード	51252007	単位	1	時間数	15
授業科目名	秋田の自然と文化Ａ－秋田の自然・資源・社会・文	開講学期等	前期後半	時間割	木7・8
授業科目名英字	Nature and Culture in Akita IVA:Nature				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
今井　亮	国際資源学部	国際資源学部G309	889-2370	石山 大三	国際資源学部	理工学研究セ218	889-2447
内田　隆	国際資源学部	国際資源学部B304	889-2652	井上 正鉄	人間環境	教文4-412	889-2588
石沢 真貴	政策科学	教文3-331	889-2616	妹尾 春樹	解剖学	医	884-6056
清水 徹男	精神科学	医	884-6119				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜，16:00-17:00	【場所】	工資G309・889-2370

授業の目的	授業の到達目標
秋田大学で学ぶ大学生として，秋田の自然社会，文化等の背景と環境を知り，秋田の特色を学び，専門教育との位置づけと係わり，地域と連携について考えることを目的とする．	1）限りある地下資源の基礎的知識を学び，世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源を認識し，資源の生成機構を理解できる． 2）世界自然遺産地域に指定された白神山地及び秋田県内の主な山岳の生態系を理解し，人間との共存の道を探ることができる． 3）秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる． 4）シロクマと秋田に棲むクマとの比較し，生態学からの問題点を考えることができる． 5）飲酒と文化，健康，法律との係わりについて学び，危険な飲酒習慣について認識を深めることができる．

カリキュラム上の位置付け	人間生活に深く関連する事柄に中で，秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ，3学部の教員がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う（本年度の担当責任者は今井亮）．
授業の概要	1）世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源，資源の生成機構についての講義と鉱業博物館の展示物（鉱物，鉱石等）を見学. 2）エネルギー資源の賦存状況，秋田県に分布する石油・ 天然ガス資源について紹介し，資源問題を考える. 3）世界自然遺産地域に指定された白神山地及び秋田県内の主な山岳の生態系，人間との共存についての講義. 4）秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする. 5）シロクマと秋田に棲むクマとの比較，生態学からの問題点についての講義. 6）飲酒と文化，健康，法律との係わり，危険な飲酒習慣についての講義.
授業の進行予定及び進め方	第1回（今井亮）：秋田県は日本有数の地下資源の宝庫として知られている．県周辺の地下資源を概説し，秋田県北東部の北鹿地域に分布する世界有数の黒鉱鉱床の地質と火山活動，鉱床探査技術について紹介し，資源問題を考える． 第2回（石山・今井）：地学や地質の自然物を対象とする学習は，実際に野外における観察や実物に触れることが大切である．資源に関する講義の理解度をより高めるために，本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物（鉱物，鉱石等）を見学・観察する（学生ボランティアも参加）．　＜鉱業博物館玄関に集合＞ 第3回（内田）：限りある地下資源としてのエネルギー資源の賦存状況を概説し，その基礎的知識を学習する．秋田県に分布する石油・天然ガス資源について紹介し，資源問題を考える． 第4回（井上）：世界遺産地域に指定された白神山地を紹介し，白神山地の保護・管理の在り方を探る． 第5回（井上）：秋田県内には十和田湖・八幡平国立公園をはじめとする多くの自然公園や世界自然遺産地域に指定された白神山地がある。これらはブナ自然林に広く覆われて多様な生物を育んでいる。秋田が誇る豊かな生態系を紹介して，人間との共存の道を探る。 第6回（石沢）：秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする． 第7回 （妹尾）： 生態学からみた，シロクマと秋田に棲むクマとの比較． 第8回（清水）：「飲酒による光と影」秋田県は日本有数の米どころ酒どころであると共に，県民１人当たりのアルコール消費量においても全国のトップクラスにある．この講義では飲酒と文化，健康，法律との係わりについて解説すると共に，危険な飲酒習慣について学生諸君の認識を深めることを目的とする．

授業に関連するキーワード			
	秋田の地質とエネルギー資源	黒鉱鉱床	世界遺産と白神山地
	秋田の自然	秋田の地域社会	自殺
	酒の功罪	鉱業博物館	

成績評価の方法	授業内容に関するレポート（50%），簡単な小テスト（50%）で評価する．

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	特に使用しない
自由記述欄	

科目コード	51941001	単位	2	時間数	30
授業科目名	日本語リテラシーⅠ－読解力と表現力－	開講学期等	前期	時間割	火5・6
授業科目名英字	Japanese Literacy Ⅰ				
備考		授業の形式	講義、実習	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部１～４年		
内容的に密接に関係する授業科目	日本語リテラシーⅠⅠ	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
阿部昇	教育文化学部	３－１３８	２６１８	成田雅樹	教育文化学部	３－１３９	２５３１
相馬高道	秋田魁新報社						

オフィスアワー	【曜日及び時間】	阿部（月１４：３０～１６：００）	【場所】	阿部（教文３－１３８））成田（教文３－

授業の目的	授業の到達目標
大学での学習・研究及び社会人としての職務に必要な質の高い読解力・表現力を身につけることを目標とする。具体的には、大学での論文講読とレポート・論文執筆、社会での実践的な文章読解と文章表現について、多様な知識と方法を身につけることをねらう。	１．レポート、報告書、記事、エッセー、論文など様々な文章について、その構造や表現の特徴を理解しながら読む力、主張や主題に対して主体的に評価する力を身に付けることができる。 ２．レポート、報告書、記事、エッセー、論文など多様な文種について、目的や相手を考慮しながら書く力、その内容・表現を自分自身で検討・推敲する力を身に付けることができる。

カリキュラム上の位置付け

授業の概要

【授業の概要】
様々な文章の構造や表現の特徴を理解しながら読む力、主張や主題に対して主体的に評価する力を身に付ける。また、多様な文種について目的や相手を考慮しながら書く力、内容・表現を自分自身で検討・推敲すること力を身に付ける。それを通して大学での学習・研究及び社会人としての職務に必要な質の高い読解力・表現力を身につけていく。

授業の進行予定及び進め方

【進行予定と進め方】
第１回　オリエンテーション
　　文章を「読むこと」と「書くこと」の関係について考える。
第２回　文章の種類と文章の構成・構造について考え理解する。文種の特徴とそれに伴う読み方・書き方の違いについて考え理解する。
第３回　文章の「わかりやすさ」とは何かについて考える。「差異性」とは何かについて考え理解する。
第４回　ＮＩＥ（教育に新聞を）について考える。「事実」と「意見」の不思議な関係について考え理解する。
第５回　クリティカルリーディングについて考え理解する。
第６回　文種の３類別（語り・伝達・主張）を理解し違いを考える。 写真に合わせて文章を書いて文種を類別する。
第７回　文種換えを行って「語り」と「伝達」の違い（視点や構造等）を理解する。手紙を記事に書き換える。
第８回　「主張」の視点や構造を理解する。社説または評論の文章構造を分析して図（トーナメント）に表す。
第９回　「主張」の文章表現を身につける。社説または評論に対する反論を書いて相互批評をする。
第10回　文種を意識して相手や目的にふさわしい文章を書くことの大切さを理解する。前回の反論文を「語り」か「伝達」のタイプに書き換える。
第11回　実践的な文章表現法について要点を理解する。
第12回　新聞を教材にして見出しづくりを行い、文章を書く際の方法を理解する。
第13回　メモの仕方、質問の仕方、字を書く前の事前準備について学ぶ。
第14回　新聞をモデルに実際に文章を書く。
第15回　提出した400字課題に対する添削や講評をもとに、自分の文章力をふり返る。

授業に関連するキーワード

文種の判別	文章構成・構造	論理　視点
書き換え　相手意識	目的意識　新聞	メモ　質問
記者会見　論文講読	レポート作成　論文執筆	クリティカルリーディング

成績評価の方法

授業中の発表や活動の状況、課題の提出状況、課題の完成度によって４段階で評価（Ａ：目標に十分達している／Ｂ：ほぼ達成している／Ｃ：最低限の達成が認められる／Ｄ：不十分である）した結果を総合して成績判定を行う。Ａを１点、Ｂを±０点、Ｃを－１点とした合計が３点の場合「Ｓ」、２点の場合「Ａ」、１～０点の場合「Ｂ」、マイナスの場合「Ｃ」とする。なお１期でも過半数の欠席がある者、全体で６回以上の欠席がある者、１つでもＤがある者は「不可」とする。

教科書・参考書等

【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
教科書	『文章吟味力を鍛える』	阿部　昇	明治図書	2003

教科書・参考書等に関する記述欄

阿部　昇『文章吟味力を鍛える』（明治図書）は生協で購入すること。それ以外の資料等は、必要に応じて授業担当者から配付する。

自由記述欄

本授業は、１～５回、６～10回、11～15回の３期を３人で担当する。成績は各期のＡ～Ｄを総合してＳ～Ｄを評価する。

科目コード	51941004	単位	1	時間数	15
授業科目名	情報と知識・技術ＩＡ－実際に役立つ学習技術－	開講学期等	前期後半	時間割	火7・8
授業科目名英字	Information Literacy in academic studies IA				
備考	50名以内	授業の形式	講義・演習	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	図書館概論，図書館サービス概論，図書館経営論	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
附属図書館長	附属図書館	2272	018-889-2272				

オフィスアワー	【曜日及び時間】		【場所】	

授業の目的	授業の到達目標
大学で学ぶにあたって必須となる学術情報について知り、自分の学習・研究に必要な参考文献を調査・選択し、レポート・論文としてまとめるためのスキル（情報リテラシー能力）を獲得する。	１）学術情報全般の基礎がわかる。 ２）秋田大学附属図書館の基本的な利用方法がわかる。 ３）秋田大学の図書検索システムOPAC等を利用して目的の図書・雑誌等を検索できる。 ４）各種データベースで情報や論文を検索でき、電子ジャーナルを入手できる。 ５）レポート・論文のまとめ方の概要がわかる。

カリキュラム上の位置付け	課外の学習を進めるに当たって，図書館と学術情報の利用に習熟することは必要不可欠であり，その意味では本科目は全カリキュラムの最初に位置するものである。また，教育文化学部における，学校図書館司書教諭及び図書館司書資格取得のための授業とも関連している。
授業の概要	授業は講義と演習で行います。演習ではコンピュータを使って実際に情報検索を行います。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定】 1．学術情報概論 / 図書館利用方法 2．レポート・論文を書くために(DVD) 3．蔵書検索方法Ⅰ 図書の検索 4．学術文献の基礎知識 5．事柄・統計・専門資料の調べ方 6．蔵書検索方法Ⅱ 雑誌の検索 / 雑誌論文の探し方Ⅰ 7．雑誌論文の探し方Ⅱ 8．講評・試験 講義：附属図書館長　演習：図書館職員

授業に関連するキーワード			
	情報検索	インターネット	図書館
	学術情報	情報リテラシー	

成績評価の方法	学習態度（30%）、課題（10%）試験（60%）とし、総合60%を合格とする。 欠席3回の時点で評価はDとする。 成績不振者、出席日数が足りない者に対して、レポート提出や追試験などの救済措置は行わない。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『情報探索ガイドブック 2014』	秋田大学附属図書館		2014

教科書・参考書等に関する記述欄	「情報探索ガイドブック 2014」は図書館で配布
自由記述欄	受講者の上限を50名とする。上限を超えた場合には抽選を行う。

科目コード	51942001	単位	1	時間数	15
授業科目名	情報と知識・技術Ⅱ－実際に役立つ統計学－	開講学期等	前期後半	時間割	金7・8
授業科目名英字	Information and Knowledge and Technology II				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目	なし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
星野　満博	非常勤講師						

オフィスアワー	【曜日及び時間】		【場所】	学生支援棟　教育推進課

授業の目的	授業の到達目標
平均値，分散等の統計に関する基本的な概念とその特性を理解するとともに，データを正確に読み，説明する為の統計的な考え方と基本的な統計手法について学習する。	情報の特性を理解し，データを整理・分析する為の基本的な技法と考え方を習得する。 データの傾向をとらえる為に，基本的な代表値の統計的な意味を理解するとともに，推定・検定における基本的な統計手法を習得する。

カリキュラム上の位置付け	
授業の概要	【授業の概要】 これまで確率や統計を学習する機会が少なかった学生を対象とし，身近な題材を例にした簡単なデータをもとに，基本的な統計手法を学習します。数学を用いる難解な箇所はできるだけ平易に解説し，電卓による簡単な計算の繰り返しにより，統計概念を理解するとともに基本的な統計分析手法を習得します。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 Ⅰ　データを整理して傾向をとらえる １．データ・変量，ヒストグラム，１次元データと代表値，平均値と分散の性質　（１回目） ２．２次元データと代表値，回帰直線，相関係数　（２回目） Ⅱ　確率的に考える 確率，確率変数，期待値，正規分布，統計量，中心極限定理　（３回目） Ⅲ　推定する（区間推定の考え方と手法）　（４回目） Ⅳ　正しいかどうか検定する（仮説検定の考え方と手法） １．仮説検定，母平均の検定　（５回目） ２．母平均の差の検定　（６回目） ３．適合度の検定，独立性の検定　（７回目）

授業に関連するキーワード			
	確率	統計	データ
	推定	検定	平均値

成績評価の方法	テスト（ノート・教科書の持ち込み可）及びリポートによる評価 総点で60%以上を合格とする

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『数理統計の探求 経営的問題解決能力の開発と論理	星野，西崎	晃洋書房	２０１２年

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

授業科目名	応用言語学Ⅰ			科目コード	60407500
授業科目名英字					
開設学期等	前期	単位		授業の形式	演習
時間割					
履修する際に前提とする授業科目	な　し		内容的に密接に関係する授業科目	後期の「第二言語習得論Ⅰ」と合わせて履修するようにしてください。英語科教育学概論II、英語科教育学演習、応用言語学II、第二言語習得論Ⅰ，Ⅱ，教育実習事前事後指導Ⅰ，Ⅱ，外国語活動概論，英語科教育学概	
教員免許取得のための必修／選択			保育士(学部)／臨床心理士(大学院)資格取得		
授業の特徴	学生参加型			担当形態	単独
科目					
施行規則に定める科目区分／各科目に含めることが必要な事項					

担当教員名，所属，学内室番号・電話番号

佐々木雅子 教科教育学講座 教育文化学部3号館3-249室　電話018-889-2638

オフィスアワー

教育文化学部3号館3-249室 水曜日10:30-12:50

授業の目的と到達目標

1) To understand what “communicative language ability” is (knowledge) 2) To understand how important interaction is in language learning (knowledge) 3) To understand “communication-oriented approach” (knowledge) 4) To do interactive language activities (skill) 5) To reflect on your own language learning (skill, interest)

授業の概要と進行予定及び進め方

第1回(4/ 9)　Introduction 第2回(4/16)　What is “communicative language ability”? 第3回(4/ 23)　How important is interaction in language learning? Is “communication-oriented approach” effective?　第4, 5, 6, 7, 8回 (4/30, 5/7, 5/14, 5/21, 5/28) Part 1 1) Weekly Debriefing　2) Doing interactive language activities　3) Reflect on your own language learning 第9回(6/4)　Mid-term Presentation 第10, 11, 12, 13回 (6/11, 6/18, 6/25, 7/2)　Part 2 1) Weekly Debriefing　2) Doing interactive language activities　3) Reflect on your own language learning 第14回(7/9)　Term-end Presentation 第15回(7/16)　Conclusion

授業以外の学習	ALTとの交流を自分の英語力の向上を図る機会とするとともに、英語を教えることおよび学ぶ際に必要な要素見つけることを目的として、気がついたことをジャーナルに記録する。英語で書くことで、英語力と英語教授力を育む。
教科書	Relevant materials to be used
参考書等	「オーラル・コミュニケーションの理論と実践」幸野稔・佐々木雅子他著　三修社　Ingram, D.E., Kono, M., O'Neill, S., & Sasaki, M. (2008). Fostering Positive Cross-Cultural Attitudes through Language Teaching. Maleny, QLD, Australia: Post Pressed. 冨田かおる・小栗裕子・河内千栄子編(2010) 『英語教育学大系　第9巻　リスニングとスピーキングの理論と実践』　大修館書店
成績評価の方法	授業への取り組み(20%), 課題への取り組み(30%) プレゼンテーション(30%), レポート(20%) 欠席（未提出）が5 回に達した時点で履修放棄とみなす。
授業関連キーワード	communicative language ability, Interaction(Negotiation of meaning), communication-oriented approach, language learning, reflection
備考	◎課外の時間帯ではあるが、毎週（曜日は調整中）19:00 to 20:00 カレッジプラザにて英語を用いたALT等との交流を行う予定です（変更の可能性はあります）。コースのPresentationに関わってくるので、現時点では、予定を空けるよう努力して下さい。 決定次第お知らせします。＊TOEFL ITPを4月と7月に受けます ＊Make the most of this course to improve your English ability, ＊Think over what sort of language learning is effective.